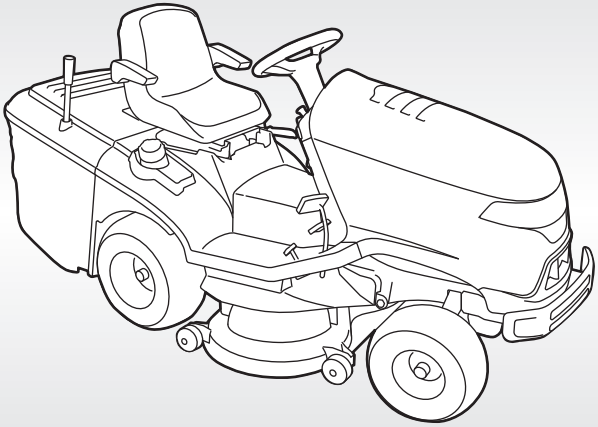
HONDA

乗用型芝刈機

HF2417

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Service & Support

Honda乗用芝刈機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店またはサービス指定店**にお気軽にお申しつけください。

取扱説明について

この取扱説明書は

- 芝刈り作業をするときには必ず携帯してください。
- 紛失や損傷の起きない場所に保管してください。
- 乗用芝刈機を貸与または譲渡される場合は、本機といっしょにお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

本製品は、（一社）日本陸用内燃機関協会の排ガス自主規制に適合したエンジンを搭載しています。

この取扱説明書は、お買いあげいただいた乗用芝刈機を安全に正しく操作する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、乗用芝刈機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の指示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう 4
安全ラベル 8
各部の名称と取扱いをおぼえましょう 10
エンジンスイッチ 12
チョークノブ 12
エンジン回転調整レバー 12
刈取り高さ調整レバー 13
後進刈取りボタン 13
刈刃クラッチノブ 13
前進ペダル 14
後進ペダル 14
ブレーキペダル 15
駐車ブレーキノブ 15
ディスプレイ部（" MODE " ボタン、表示灯、警告ブザー） 16
前進ペダル保持システムノブ 20
USB ソケット 20
グラスバッグ開閉レバー 21
マルチングレバー 21
マニュアルレバー 22
作業前に点検、調整しましょう 23
エンジンカバーの開けかた 23
冷却空気取入れ口の点検 23
エンジンオイルの点検 24
燃料の点検 25
エアクリーナー（空気清浄器）の点検 27
シートの位置調整 28
駐車ブレーキの点検 29
マフラー、マフラープロテクターの点検 29
刈刃の点検 30
安全装置の点検 31

刈刃クラッチノブの点検 32
シートスイッチの点検 33
駐車ブレーキシステムの点検 34
マルチングフラップの点検、清掃 34
タイヤ空気圧の点検 35
その他の点検 35
エンジンのかけかた 36
運転操作のしかた 39
芝刈機のとめかた 43
芝刈機の清掃と保管 44
定期点検を行いましょう 46
定期点検表 46
点検・整備のしかた 47
エンジンオイルの交換 47
エアクリーナー（空気清浄器）の清掃、交換 50
バッテリー液の点検 52
点火プラグの点検、調整、交換 53
刈刃ベルトの点検 54
グラスバッグの取外し、取付け 55
ヒューズの交換 56
グラスバッグブザースイッチの清掃 57
運搬するときは 58
アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし 58
ロープによる固定方法 60
長期間使用しないときの手入れ 61
故障のときは 63
主要諸元 65
配 線 図 66

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

● 作業を始める前に

- **この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上操作してください。**
- **間違いなく取扱うために各部の操作になれ、すばやく停止する方法を習得してください。**
- **適切な指示、説明なしでは誰にも本機を使用させないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。**
- **本機を他人に貸す場合は、取扱い方法を良く説明し、取扱説明書を良く読むように指導してください。**
- **過労や飲酒、薬物を服用して本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。**
- **日常点検、整備を必ず行い本機を常に良好な操作状態においてください。不具合な状態や問題のある状態で操作すると、ケガをしたり本機を損傷する原因となります。**
- **ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。**
- **燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。**
- **燃料をこぼさないように注意して給油限界位置を越えないように補給し、燃料タンクキャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。**
- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**
- **カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。**
- **誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。**
- **本機の乗車定員は 1 名です。運転者以外の人や物を乗せないでください。また道路および一般交通に供するような所では走行できません。**

警告

- **防護装置が正しく取付けられていることを確認してから作業してください。**
- **本機は5℃以上、40℃以下の環境でご使用ください。外気温が4℃以下になるような環境で使用すると、防護装置が損傷し、事故を起こす可能性があります。**
- **衣類や頭髪、手ぬぐいなどが巻き込まれないよう作業に適した服装をし、防護メガネ、作業に適した靴などを用いて作業してください。**
- **芝刈り作業は日中か十分な照明のもとで行ってください。悪天候などで視界の悪いときは作業しないでください。事故の危険性が高くなります。**
- **放出物や衝突による事故防止のため、作業範囲内の石、空き缶、板切れなど全ての異物を取除いてください。**
- **本機を使用する前に必ず刈刃を点検してください。刈刃が摩耗、損傷していると破片によって大ケガをすることがあります。**
- **本機は芝刈り以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。**
- **芝刈り作業をせずに移動するときは、刈刃を停止させ、刈取り高さを"7"の位置にしてください。**
- **急斜面の芝刈り作業は、本機を使用して行わないでください。転倒防止のため傾斜10°以下の斜面でご使用ください。**
- **斜面（10°以下）の芝刈り作業を行うときは、斜面を上下方向に行ってください。またグラスバッグに芝が半分たまったら芝を捨ててグラスバッグを空にしてください。バランスを失い転倒するおそれがあります。**
- **グラスバッグは、作業前に損傷していないことを確認してください。すり切れて小穴があいていたり、縫目が破れたまま使用しないでください。**
- **LEDヘッドライトを直接見ないでください。目に悪影響をおよぼすおそれがあります。**

警告

●作業中

- **エンジンが始動しているときは、手や足を刈刃カバーの上におかないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。**
- **芝刈り作業範囲内に石などの異物があると、刈刃の回転力により石飛びが発生することがあります。人身および物損事故が起きないよう作業時には十分注意してください。**
- **作業範囲内に人や動物などを近づけないでください。もし人や動物が近づいたら作業を停止してください。また作業している周辺に人家や車などがある場合は、防護シートなどでおおってから作業を行ってください。**
- **グラスバッグを着脱するときは、必ずエンジンを停止して行ってください。**
- **移動、方向転換するときは刈刃クラッチノブを押し（切）、刈刃が停止してから行ってください。刈刃が回転していると異物などの飛び出しにより大ケガをするおそれがあります。**
- **刈刃カバー内に刈取った芝が詰まったときは、速やかに刈刃を停止させ、芝の除去が安全に行える場所に本機を移動してください。移動後エンジンを停止し、厚手の手袋を着用して棒などで芝の除去作業をしてください。**
- **本機に草や木の葉を蓄積させたままにしないでください。草や木の葉は燃えやすく特にエンジンの近くにあると火災の原因となります。**
- **作業中、障害物に当たったときは、すぐエンジンを停止させ、万一の始動を防止するためにエンジンスイッチキーを抜いて、損傷の有無を調べてください。損傷があった場合修理しないで再始動すると、損傷した部品が飛び出すなどして大ケガをするおそれがあります。**
- **本機から離れるときは、他の人が運転できないように、エンジンスイッチキーを抜いて携帯してください。**
- **過労による事故防止のため、長時間連続の作業をせず途中休憩を取ってください。**

警告

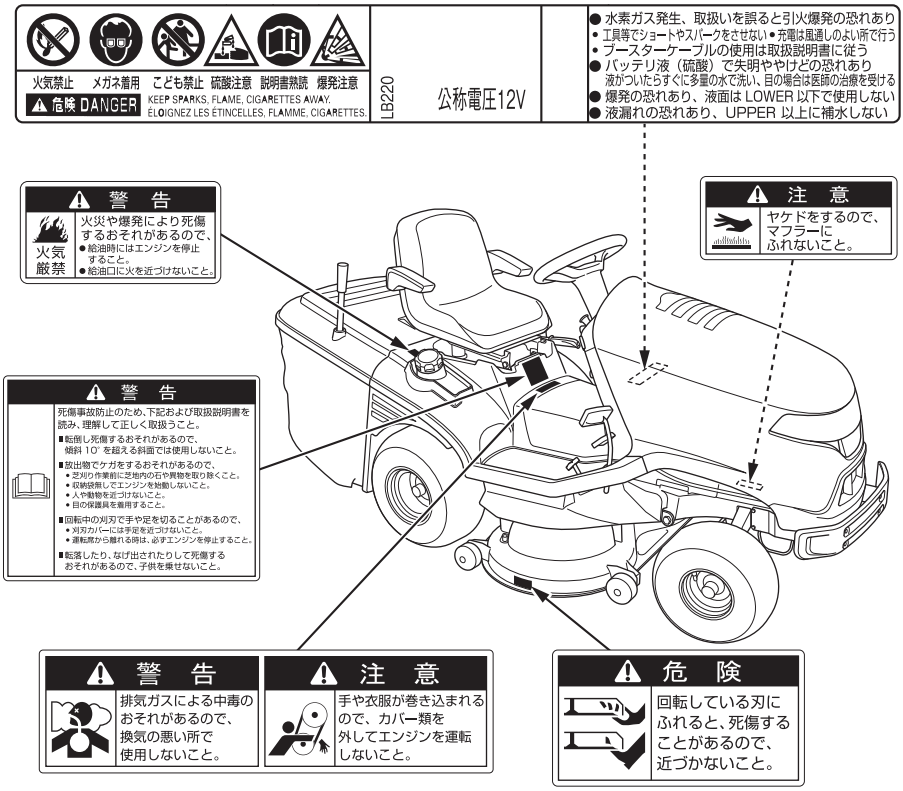
●作業が終わったら

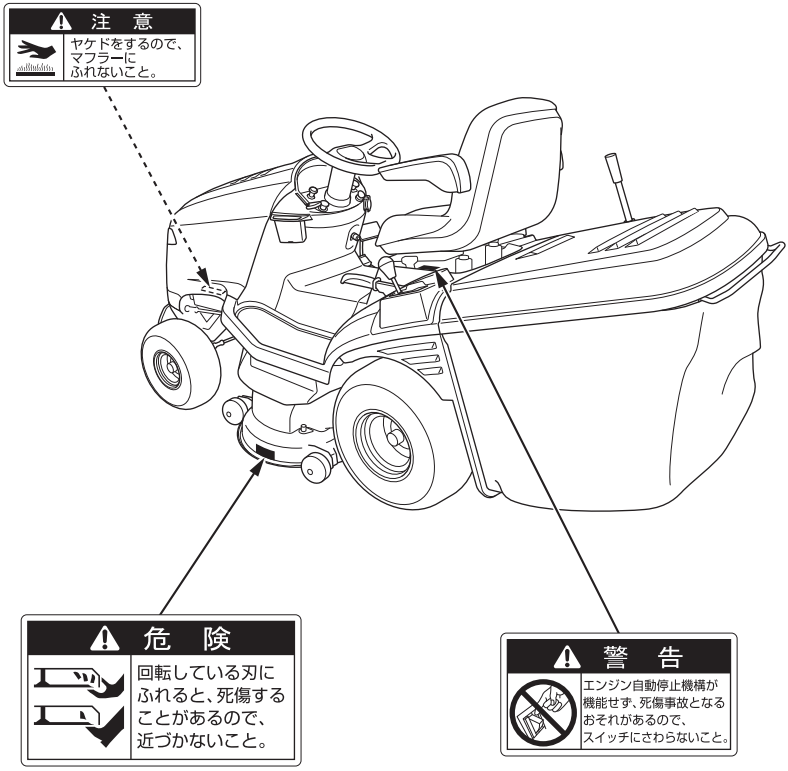
- **作業が終わり、本機を移動する場合は、刈刃を停止させ、刈取り高さを＂7＂の位置にしてください。**
  グラスバッグの刈取った芝は、早めに適切に処理してください。袋に入れたまま放置すると、湿った芝または腐った芝が熱を発生し火災の原因になります。
- **各部の点検・調整・清掃を行うときは、誤ってエンジンを始動しないように、エンジンスイッチキーを抜いて、エンジン各部が十分に冷えてから行ってください。**
- **格納する場合は、エンジン各部が十分冷えてから、近くに燃えやすい物がない平坦な場所に、駐車ブレーキをかけて格納し、エンジンスイッチキーを抜いてください。**
- **長期保管前には、キャブレターおよび燃料タンク内の燃料を抜取り、本機を火気のないところに保管してください。また抜いた燃料は引火しやすく、火災や爆発の危険があります。所定の燃料タンクなどに入れ、保管してください。**
- **車への積み降ろしをするときは、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。**
- **運搬時には、転倒や落下しないように確実に固定してください。また燃料タンクとキャブレターの燃料を抜いてください。**

●安全ラベル

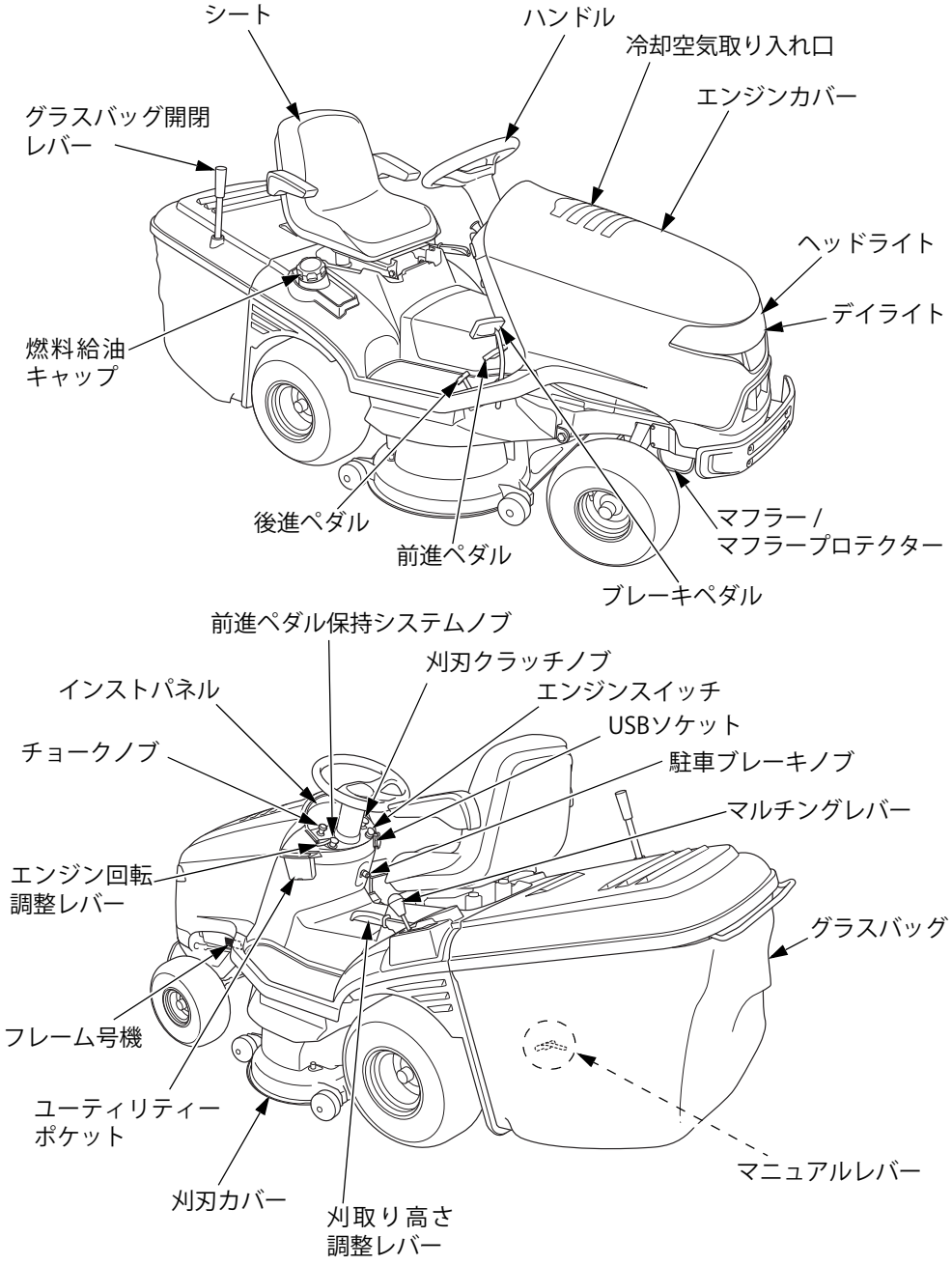
本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべてお読みになってからご使用ください。
本機に貼ってあるラベルの破れ、紛失または汚れなどでラベルが読めなくなった場合は、新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものに貼り替えてください。ラベルの貼り替えについては、お買いあげ販売店またはサービス指定店へお問い合わせください。

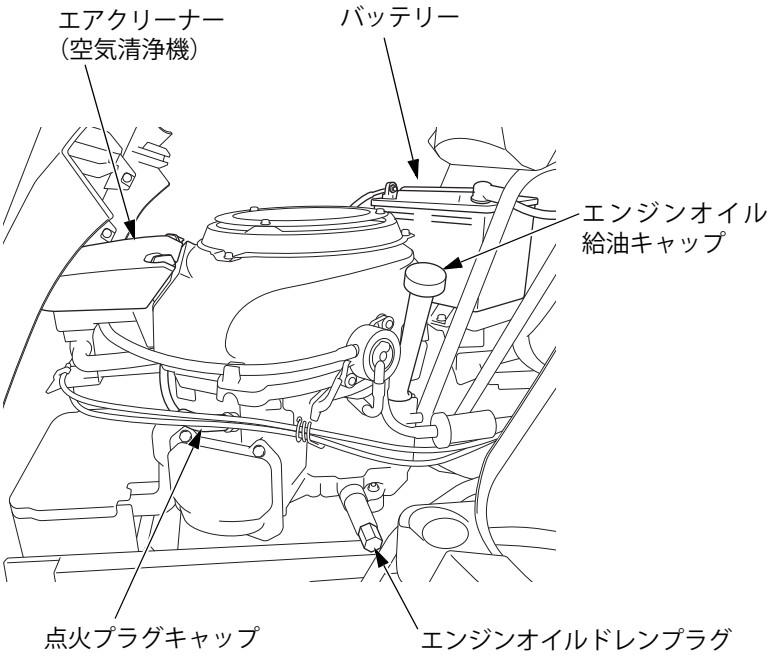
（バッテリー本体のラベル）

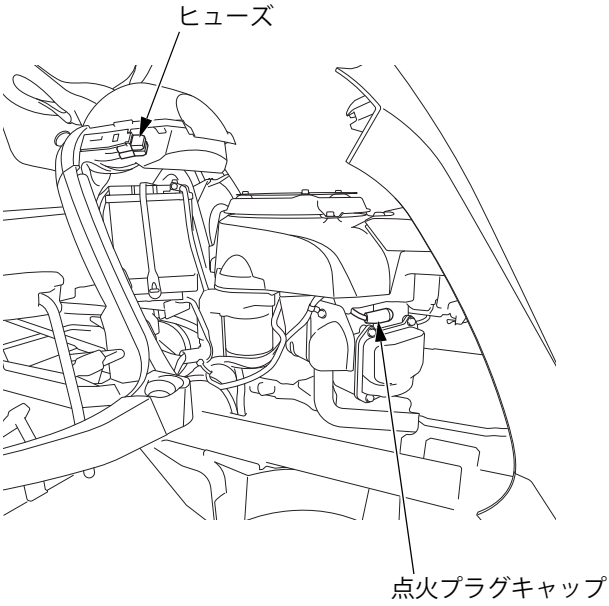



注　意
ヤケドをするので、
マフラーに
ふれないこと。
危　険
回転している刃に
ふれると、死傷する
ことがあるので、
近づかないこと。
警　告
エンジン自動停止機構が
機能せず、死傷事故となる
おそれがあるので、
スイッチにさわらないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

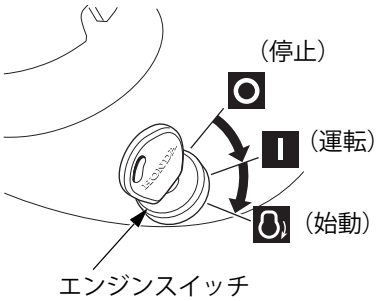



エアクリーナー
（空気清浄機）
バッテリー
エンジンオイル
給油キャップ
点火プラグキャップ
エンジンオイルドレンプラグ


ヒューズ
点火プラグキャップ

エンジンスイッチ

エンジンを＂**始動**＂、＂**運転**＂、＂**停止**＂するときに操作します。

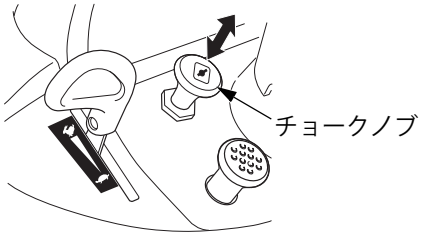


- シートに着座し、＂N＂（中立）表示灯が点灯、刈刃クラッチノブが押した（切）状態にあるとき以外では、スターターモーターは回転しない構造になっています。

チョークノブ

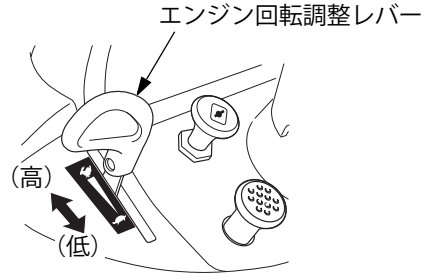
エンジンを始動するときに操作します。気温が低くエンジンがかかりにくい場合は、チョークノブを引いてください。

- エンジンの回転が安定したら、チョークノブを戻してください。
- エンジンが暖まっている場合、または気温が高いときには、操作しないでください。



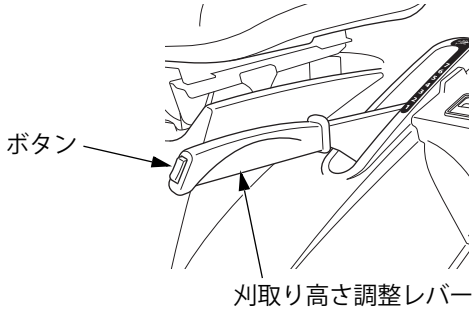
エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。＂**低**＂から＂**高**＂までエンジン回転を操作します。



刈取り高さ調整レバー

刈取り高さを調整するときに操作します。レバーの位置を変えることによって7段階に刈取り高さを調整することができます。
刈取り高さを高くするときはレバーを引き上げ、刈取り高さを低くするときはレバー先端のボタンを押しながらレバーを押し下げます。



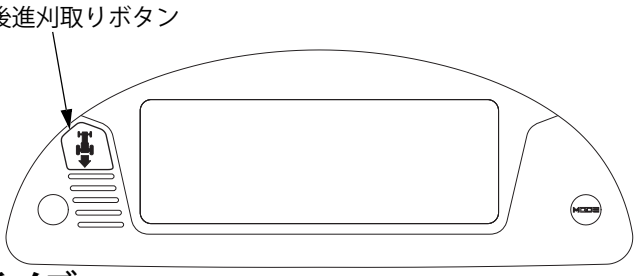
刈取り高さ目安

（表示盤）	約
1	29mm
2	39mm
3	49mm
4	59mm
5	69mm
6	80mm
7	90mm

- 実際の刈取り高さは、芝の種類や芝地などの条件により上記数値と異なる場合があります。
- 芝刈り作業をせずに移動するときは、刈取り高さ調整レバーを "7" の位置まで引き、刈刃カバーをいちばん高い位置にしてください。

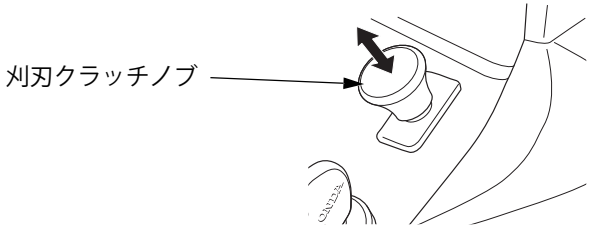
後進刈取りボタン

後進で刈取りをするときに操作します。ボタンを押しながら後進ペダルを踏むことにより、エンジンを停止することなく、後進で刈取りすることができます。



刈刃クラッチノブ

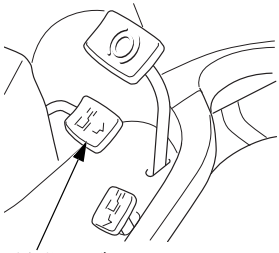
刈刃を駆動、停止させるときに操作します。
ノブ位置 "**引く（入）**" …… 刈刃が駆動します
"**押す（切）**" …… 刈刃が停止します



●刈刃クラッチノブを引く（入）と、刈刃表示灯（16頁参照）が点灯します。
●条件を満たさずに刈刃を駆動すると、エンジンが停止します。（安全装置の作動条件は31頁参照）
●刈刃クラッチノブを押す（切）と、ブレーキが作動し、数秒で刈刃の回転が停止します。

前進ペダル

本機を前進するときに使用します。
●ペダルを放すと自動的に＂N＂（中立）に入ります。
●＂N＂（中立）に入ると表示灯が点灯します。

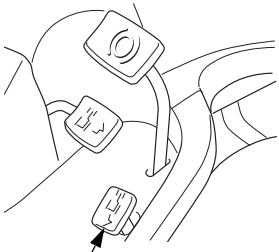


取扱いのポイント

後進中は前進ペダルを操作しないでください。前進ペダルの操作は、本機が完全に停止してから行ってください。

後進ペダル

本機を後進するときに使用します。
●ペダルを放すと自動的に＂N＂（中立）に入ります。
●＂N＂（中立）に入ると表示灯が点灯します。

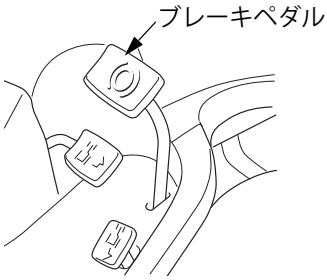


取扱いのポイント

前進中は後進ペダルを操作しないでください。後進ペダルの操作は、本機が完全に停止してから行ってください。

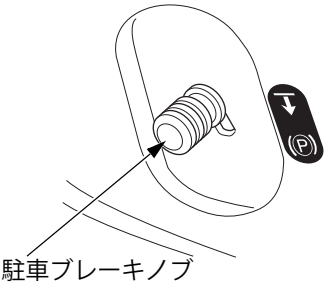
ブレーキペダル

本機を停止するときに使用します。



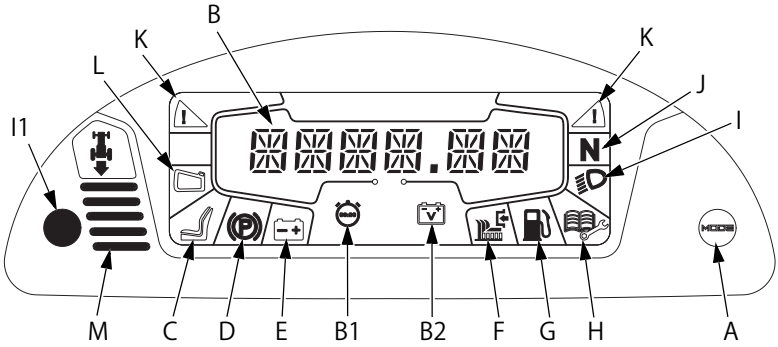
駐車ブレーキノブ

本機を駐車するときに使用します。
ブレーキペダルをいっぱいに踏み込み、駐車ブレーキノブを押し下げた状態でブレーキペダルを離すと固定されます。
解除するときは、ブレーキペダルを踏みます。



- 本機は平坦な場所に駐車してください。
- 駐車ブレーキをかけるときには、必ず前進ペダル、または後進ペダルを離してください。
- 駐車ブレーキをかけた状態で走行すると、エンジンが停止します。
- 駐車ブレーキをかけると、駐車ブレーキ表示灯が点灯します。

ディスプレイ部（" MODE " ボタン、表示灯、警告ブザー）



A) " MODE " ボタン：
ボタンを押すとディスプレイ（B）の表示が、エンジン稼働経過時間（B1）とバッテリー電圧（B2）の順番で切り替わります。

B1) 稼働時間表示灯
エンジンの稼働経過時間（0～9999.9時間）をディスプレイ（B）に表示します。9999.9時間を超えるとそれ以上のカウントはしません。

B2) バッテリー表示灯
バッテリー電圧（6.0～16.5 V）の値をディスプレイ（B）に表示します。

C) シート表示灯：
シートに運転者が着座していないときに点灯します。

D) 駐車ブレーキ表示灯：
駐車ブレーキがかかっているときに点灯します。

E) バッテリー表示灯：
エンジン停止時およびバッテリーの充電が不足しているときに点灯します。

F) 刈刃表示灯：
刈刃が駆動状態のときに点灯します。

G) 燃料表示灯：
残燃料が約1.5 ℓ 以下のときに点灯します。

H) メンテナンス表示灯：
メンテナンス間隔に達したときに点灯し、点灯中はエンジンスイッチが " 運転 " の時に以下のメンテナンスコードでディスプレイ（B）に表示されます。

" M20 " =メンテナンス間隔が20時間に達した
" M50 " =メンテナンス間隔が50時間に達した
" M100 " =メンテナンス間隔が100時間に達した
" M300 " =メンテナンス間隔が300時間に達した

メンテナンス間隔が複数達した場合は、コードが2秒間隔で数字の昇順で繰り返し表示されます。
メンテナンスコードはエンジンスイッチが " 運転 " の時のみ表示され、" MODE " ボタンによる表示モードの変更後またはエンジン始動後には表示されません。
メンテナンス表示灯はエンジンスイッチが " 運転 " の時に表示され、エンジンの状態や表示モードに関係なく点灯したままです。
メンテナンス表示灯とメンテナンスコードのリセットは、エンジン停止状態で " MODE " ボタンを10秒以上長押しするとリセットされ、メンテナンス表示灯とメンテナンスコードが両方消灯します。
エンジンが停止した直後にメンテナンスコードが表示されない、またはリセットできない場合は、バッテリー電圧をディスプレイで確認し、12.7V未満に低下するまでお待ちください。その後、エンジンスイッチを " 停止 "、" 運転 " にして、メンテナンスコードが表示されることを確認してください。
-メンテナンス間隔に達したら、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申し付けください。
-実際にメンテナンスを行った稼働経過時間を記録することをお勧めします。
-各メンテナンスが終了したら、メンテナンス表示灯とメンテナンスコードのリセットを行ってください。リセットしないと、次回以降のメンテナンス間隔が正しくカウントされません。
-メンテナンス表示灯とメンテナンスコードは、リセットを行うと次回のメンテナンス間隔に達するまでは表示されません。
-メンテナンス間隔に達する前にリセットを行うと次回のメンテナンス間隔がすぐに来ます。その際、既にメンテナンスが完了している場合は再度リセットを行ってください。
例）本機が45時間稼働した時、メンテナンス表示灯とメンテナンスコードの " M20 " はすでに表示されており、20時間ごとのメンテナンスと50時間ごとのメンテナンスを実施してリセットを行いました。その後、5時間の稼働でメンテナンス表示灯とメンテナンスコード " M50 " が再び表示されます。この場合、50時間ごとのメンテナンスは既に実施されているので再度リセットを行ってください。

メンテナンススケジュールについては、46頁を参照してください。

I) ヘッドライト表示灯：
メインヘッドライト点灯時に点灯します。
（デイライトはエンジンスイッチが " 運転 " の時に常時点灯します。）

I1) ヘッドライトセンサー：
センサーが内蔵されており、周囲が暗くなるとヘッドライトを点灯させ、明るくなると消灯させます。不要な作動を防ぐため、センサーの周辺は綺麗にし、ふさがないでください。
-エンジン始動時に短い時間、明るさが低下する可能性があります。
-周囲が急に暗くなった場合、メインヘッドライトが点灯するまで時間がかかる可能性があります。

J) ニュートラル表示灯：
トランスミッションが " N " （中立）のときに点灯します。

K) INFO表示灯：
急旋回時および本機の傾きが作業推奨角度の限界に近づくと左右の表示灯が点灯します。
-INFO表示灯は、あくまで運転者が傾斜角度を認識するための目安であり、作業時には運転者自身で傾斜角度を確認してください。
-急発進、急停止、急旋回を行うとINFO表示灯が表示する場合がありますので、これらの運転操作は避けてください。
-INFO表示灯は、運転者の体重、グラスバッグの重量、タイヤの空気圧の影響を受けます。
-オプション品のアクセサリーを組みつけた場合、INFO表示灯が点灯する可能性があります。
-INFO表示灯が点灯した場合は、本機が作業推奨角度の限界に近づいているので注意してください。

L) グラスバッグ表示灯：
グラスバッグが未装着のときに点灯します。
グラスバッグ内の芝が満杯のときは点滅します。

M) 警報ブザー：

1) エンジンスイッチ " 運転 " 時の動作チェック音
エンジンスイッチを " 運転 " にすると一瞬全ての表示灯が点灯し、同時に " ピッ " と短くブザー音が鳴ります。
全てのランプが表示しない、またはブザー音が鳴らない場合は、買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

2) グラスバッグ満杯時
グラスバッグ内の芝が満杯になると、グラスバッグ表示灯の点滅とともにブザー音が " ピー、ピー " と断続的に鳴ります（刈刃が駆動状態のときのみ）。刈刃デッキ内のつまり防止のため、すみやかに刈刃とエンジンを停止させグラスバッグ内の芝を処理してください。グラスバッグ内の芝を処理しても鳴り続ける場合は、グラスバッグブザースイッチを清掃してください。（57頁参照）

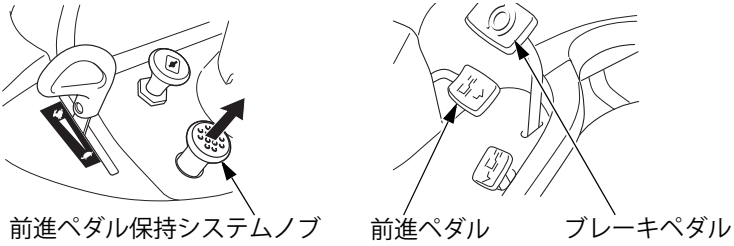
3) バッテリー過電圧警報
バッテリー電圧が過電圧状態になった場合、システム保護のため全システムを停止させ、ブザー音のみ鳴り続けます。エンジンスイッチを " 停止 " にしたあと、しばらくたってから再始動しても鳴り続ける場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

前進ペダル保持システムノブ

前進ペダルを操作せずに前進速度を維持することができます。
前進ペダル保持システムを設定する場合は、前進ペダルを踏みながら前進ペダル保持システムノブを引きます。
前進ペダル保持システムを解除する場合は、前進ペダルまたはブレーキペダルを踏むことで前進ペダル保持システムノブが自動的に押し戻され解除されます。また、前進ペダル保持システムノブを押すことでも解除されます。

取扱いのポイント

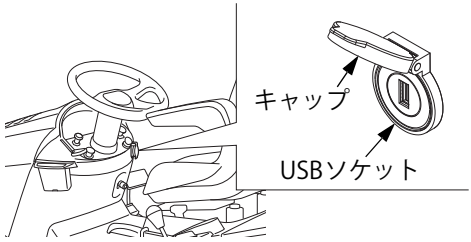
- 前進ペダル保持システムは前進のみです。後進では設定できません。
- 前進ペダル保持システムの設定中は、後進ペダルは使用できません。
- 坂道では速度が変わる場合があります。



USB ソケット

USB機器を充電するときに使用します。
エンジンスイッチが " 運転 " の時に使用することができます。

出力電圧：DC 5 V ±0.25 V
出力電流：最大 2.1 A

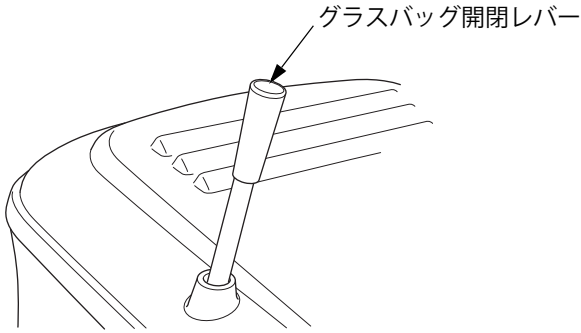


取扱いのポイント

- 充電前に USB 機器のデータをバックアップすることを推奨します。アクセサリーソケット使用中にUSB機器のデータが削除されても保証の対象外となります。
- 移動中や芝刈り作業中は機器の操作をしないでください。
- エンジンが作動している状態で充電してください。エンジン停止時に充電するとバッテリーが消耗します。
- USBソケットは充電専用です。
- 雨の日や濡れた状態でUSB機器を充電しないでください。
- 雨の中やほこりの多い場所ではキャップを開けないでください。

グラスバッグ開閉レバー

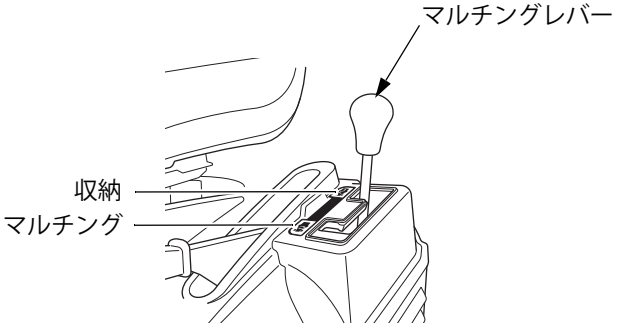
グラスバッグを開閉するために使用します。
レバーを引き出して使用してください。



マルチングレバー

収納とマルチングを切替えるときに使用します。収納およびマルチング作業にはそれぞれに適した作業条件がありますので、よく理解して使用してください。

- マルチング機能を有効にするときでも、グラスバッグを必ず取り付けてください。グラスバッグが未装着の状態で刈刃クラッチノブを引く（入）と、エンジンが停止します。
- レバーが重かったり、引っ掛かりを感じるときは、マルチングフラップおよび排出口を清掃してください。（34頁参照）



取扱いのポイント

刈刃が駆動しているときは、切替え操作を行わないでください。切替え操作は、刈刃が停止している状態で行ってください。

マニュアルレバー

マニュアルレバーを切り替えることで本機を手で押して移動することができます。

通常は、レバーを左側にしておきます。

本機を手で押して移動する必要があるときには、レバーを右側にします。

⚠警告

マニュアルレバーの切換えは、平坦な場所で行ってください。傾斜地でレバーの切換えを行うと、本機が空走することがあり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

レバーを切換えるときは

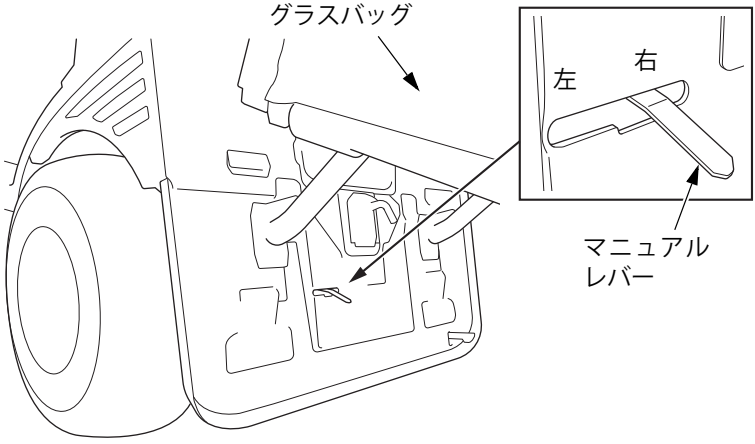
1. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます（15 頁参照）。
2. グラスバッグを上げます。
3. マニュアルレバーを左または右に動かします。

⚠注意

本機は、芝刈り以外の目的で使用しないでください。本機で車両などをけん引したり、また他の車両で本機をけん引したりしないでください。変速機の故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

左側：通常時

右側：手で押して移動するとき



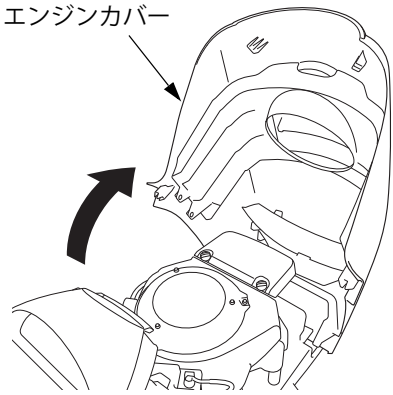
⚠警告

不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- **点検は平坦な場所で本機を水平にして行ってください。**
- **点検前に必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチキーを抜いてください。**

エンジンの周りや下側に燃料、オイルの漏れがないことを確認してください。いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

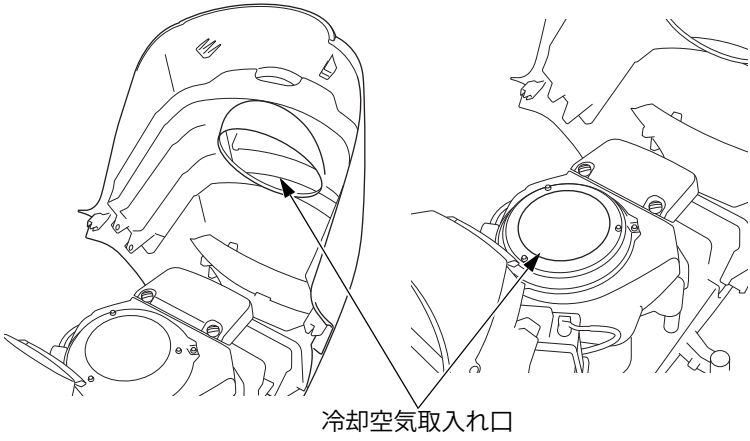
エンジンカバーの開けかた

1. エンジンカバーを持ち上げ、カバーを開けます。



冷却空気取入れ口の点検

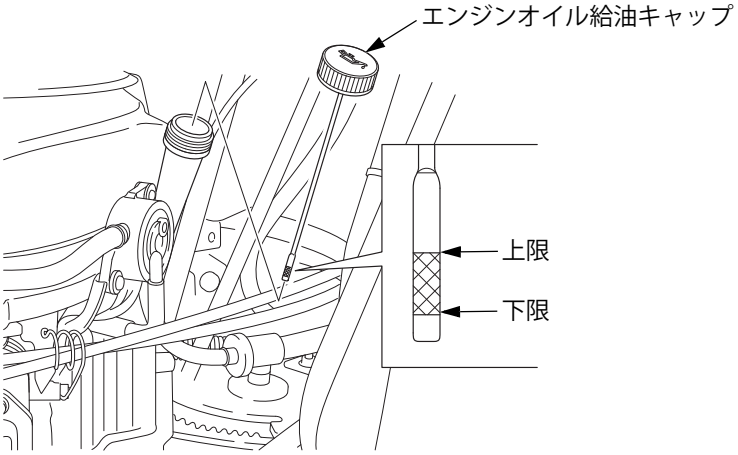
エンジンに冷却空気が十分入るように冷却空気取入れ口についた芝やゴミを取り除いてください。



エンジンオイルの点検

点検

エンジンカバーを開け（23頁参照）、エンジンオイル給油キャップ付近のほこりや芝くずを取除いてからエンジンオイル給油キャップを外し、オイルをふき、キャップをねじこまず差し込んで油量を確認します。油量が少ないときは上限までオイルを補給してください。

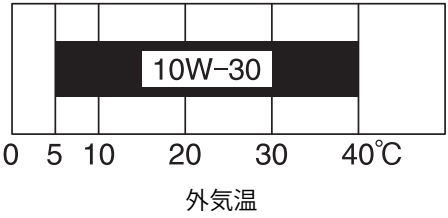


補給

給油キャップを外し、新しいオイルを上限まで補給します。

推奨オイル：Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W－30）
　　またはAPI分類SE級以上のSAE10W－30オイルをご使用ください。

エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



汚れや変色が著しい場合は交換してください。（47頁参照）

取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

燃料の点検

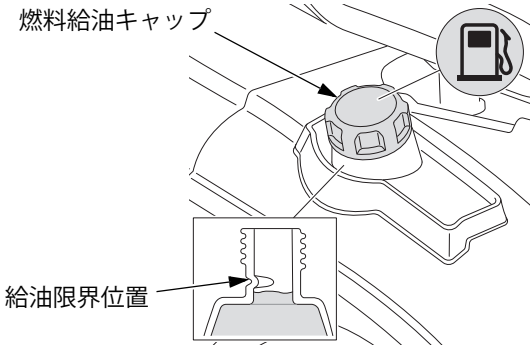
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンの補給は

- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しヤケドを、負うおそれがあります。
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふきとってください。**
  ガソリンをふきとった布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- **ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を越えないように補給してください。**
  入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。

点検

燃料給油キャップを外し、燃料があることを確認します。少ない場合は補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

タンク容量：8.5ℓ

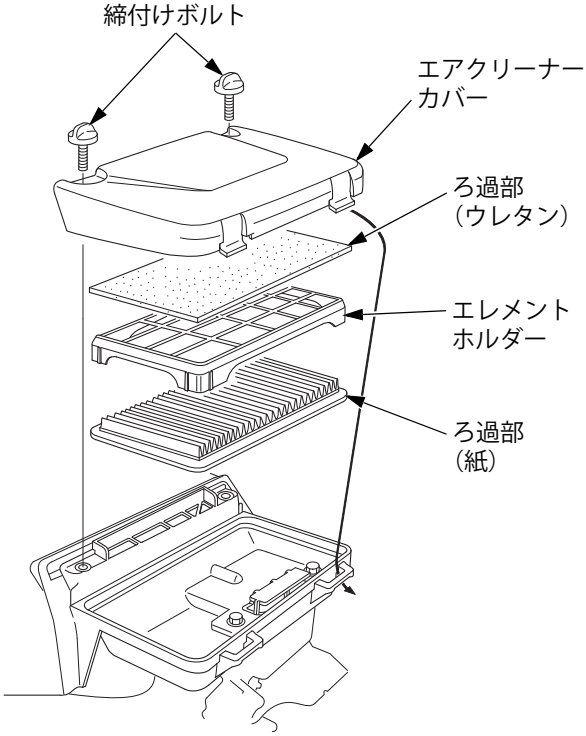
- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 補給後、給油キャップを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。劣化したガソリンを使うとエンジン故障の原因となります。

エアクリーナー（空気清浄器）の点検

1. エンジンカバーを開けてください。（23頁参照）
2. 締付けボルトを外し、エアクリーナーカバーを取外します。
3. ろ過部（ウレタン、紙）の汚れを確認します。
4. 汚れがひどい場合は、ろ過部の清掃を行ってください。
   （50頁参照）

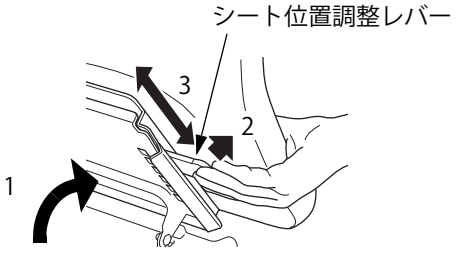


取扱いのポイント

- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部（ウレタン、紙）を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- エアクリーナーケースに塵やほこり、異物等が入ると、キャブレターに悪影響を与える原因になります。

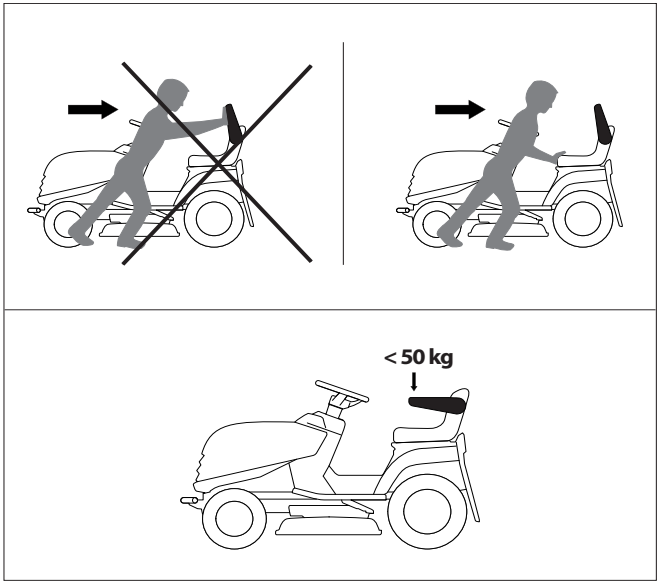
シートの位置調整

1. シートを前方に傾けます。
2. シート位置調整レバーを引き上げます。
3. 運転者に適したロック位置にシートを動かし、シート位置調整レバーを放します。



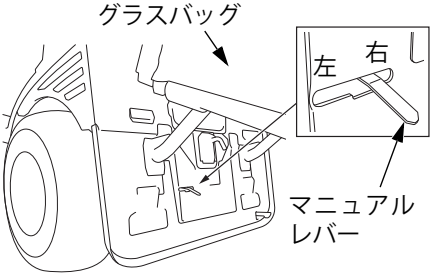
⚠警告

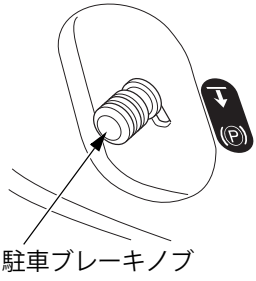
- **アームレストを持って本機を押さないでください。ケガをしたり本機を損傷する原因となります。**
- **アームレストの耐荷重は50 kgです。アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。ケガをしたり本機を損傷する原因となります。**



駐車ブレーキの点検

1. 駐車ブレーキをかけます。（15頁参照）
2. マニュアルレバーを右側にします。
3. 車体を前後に揺すり、車体が動かないことを確認してください。
4. マニュアルレバーを左側に戻します。





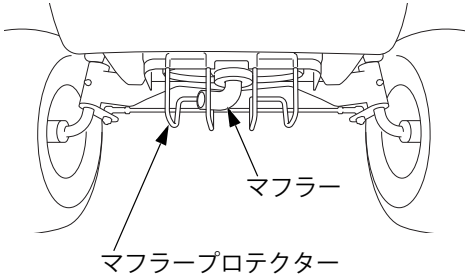
駐車ブレーキの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

マフラー、マフラープロテクターの点検

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジンやマフラーなどの温度が高くなっています。十分に冷えてから点検を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

マフラー、マフラープロテクターのゆるみ、ガタ、損傷がないことを確認してください。



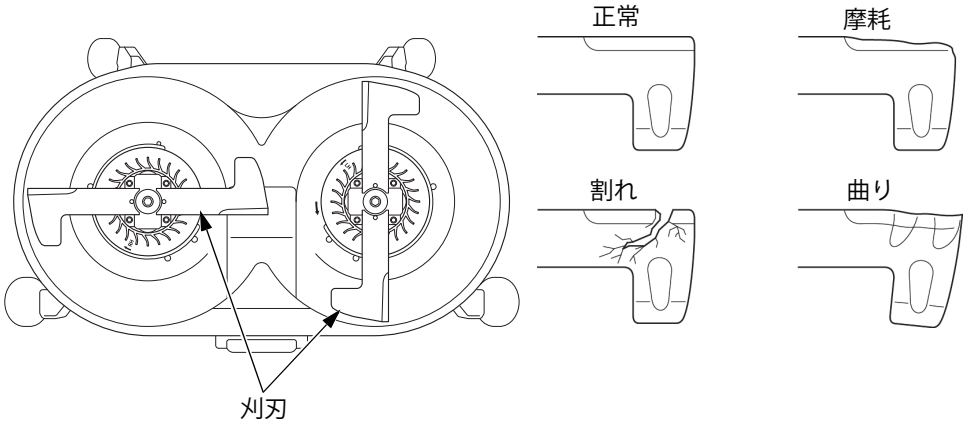
マフラー、マフラープロテクターに異常が認められた場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

刈刃の点検

⚠警告

- **作業を安全に行うために、刈刃の作業前点検を行ってください。刈刃のゆるみ、摩耗、割れ、曲がりなどを放置すると、刈刃が折損して飛び出し、作業者や付近にいる人に当たるなどして重大な人身事故を招くおそれがあります。**
- **刈刃の点検をするときは、エンジンを停止してから行ってください。刈刃でケガをするおそれがあります。**

1. エンジンスイッチキーを抜き、駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。
2. 刈刃クラッチノブを押し（切）、刈取り高さ調整レバーを " 7 " の位置にします。
3. 目視で刈刃の状態を確認します。



刈刃およびカバー内に芝が詰まっているときは、厚手の手袋を着用し、棒などで芝の除去作業をしてください。
刈刃に異常が認められた場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

安全装置の点検

安全装置の点検は、エンジンを始動して行います。エンジンのかけかた（36頁参照）、芝刈機のとめかた（43頁参照）を事前にお読みいただいた上で点検を行ってください。

⚠警告

- **点検は平坦な場所で周囲の安全に十分注意して行ってください。**
- **点検時は、刈取り高さを " 7 " の位置にして、刈刃カバー付近には異物がないことを確認してください。**

安全装置は2つの方法で機能します。

–すべての安全要件が満たされていない場合、エンジンが始動しないようにします。

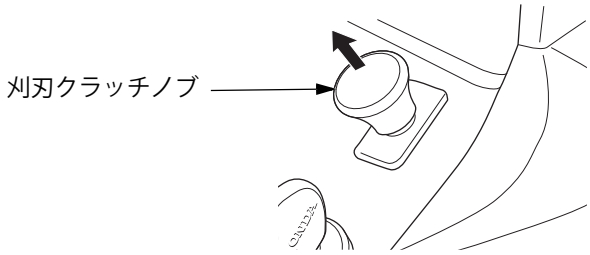
–安全要件の1つでも不足している場合にエンジンが停止します。

以下の表は、安全装置が作動する条件を示しています。

シート	グラスバッグ	刈刃クラッチノブ	走行ペダル	ブレーキ（駐車ブレーキ）	エンジン
始動時（エンジンスイッチ " 始動 " ）					
着座	-	押す（切）	踏んでいる（前進/後進）	かかっている	始動しない
着座	-	引く（入）	踏んでいない（ " N " /中立）	かかっている	始動しない
不在	-	押す（切）	踏んでいない（ " N " /中立）	かかっていない	始動しない
運転時/走行時（エンジンスイッチ " 運転 " ）					
着座	装着	押す（切）	踏んでいる（前進/後進）	かかっている	停止
不在	装着	押す（切）	踏んでいない（ " N " /中立）	かかっていない	停止
芝刈り時（エンジンスイッチ " 運転 " ）					
着座	未装着	引く（入）	-	かかっていない	停止
着座	装着	引く（入）	踏んでいる（後進）	かかっていない	停止*
不在	装着	押す（切）	踏んでいない（ " N " /中立）	かかっていない	停止
不在	装着	引く（入）	-	かかっている	停止
* 後進刈取りボタンを押し続けた場合は停止しない					

刈刃クラッチノブの点検

1. シートにすわり、駐車ブレーキをかけてください（15頁参照）。
2. " N "（中立）表示灯が点灯していることを確認し、走行ペダルを離した状態で、刈刃クラッチノブを引いて（入）ください。



3. エンジンスイッチを " **始動** " の位置にして、スターターモーターが回らないことを確認します。
   刈刃クラッチノブの故障時は、スターターモーターが回りブレードが回転する可能性がありますので、必ず周囲に人やものがない状態で確認してください。
4. エンジンスイッチを " **停止** " の位置にして、刈刃クラッチノブを押して（切）ください。

刈刃クラッチノブの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

シートスイッチの点検

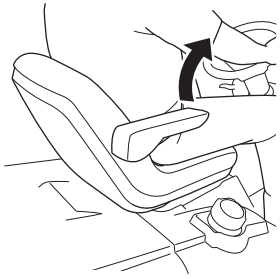
シートスイッチの点検、駐車ブレーキシステムの点検は、エンジンを始動して行います。エンジンのかけかた（36頁参照）、芝刈機のとめかた（43頁参照）を事前にお読みいただいた上で点検を行ってください。

⚠警告

- **点検は平坦な場所で周囲の安全に十分注意して行ってください。**
- **点検時は刈取り高さを " 7 " の位置にして、刈刃カバー付近には異物がないことを確認してください。**

作業中シートから体が離れると自動的にエンジンが停止する構造になっています。

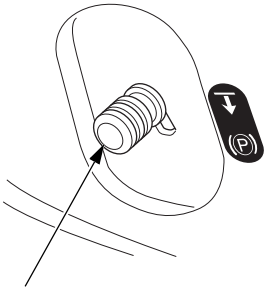
1. **エンジンを始動し、エンジン回転調整レバーを " 低 " の位置にしてください。**
2. **シートから腰を上げてください。**
   エンジンが停止することを確認してください。
3. **エンジンスイッチを " 停止 " の位置にしてください。**



シートスイッチの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

駐車ブレーキシステムの点検

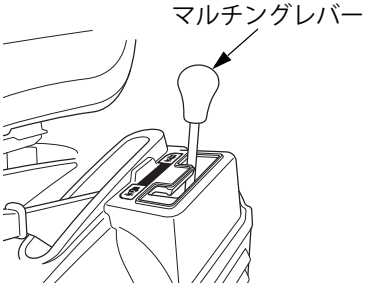
1. 駐車ブレーキをかけ（15頁参照）、エンジンを始動します（36頁参照）。
2. 前進ペダルを踏み、エンジンが停止することを確認してください。
3. 前進ペダルを放し、エンジンスイッチを " **停止** " にします。

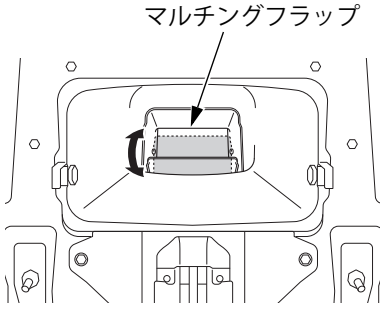


駐車ブレーキシステムの点検で異常があった場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

マルチングフラップの点検、清掃

1. グラスバッグを取外します。（55頁参照）
2. マルチングレバーを動かし、マルチングフラップが正しく動くことを確認します。正しく動かない場合は、マルチングフラップ周辺を清掃してください。





清掃しても正しく動かない場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

タイヤ空気圧の点検

タイヤゲージでタイヤの空気圧を確認してください。

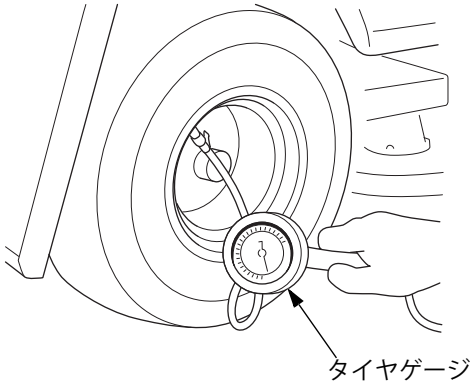
空気圧：前輪 … 100 kPa (1.0kgf/cm²)

後輪 … 120 kPa (1.2kgf/cm²)

空気圧が高すぎたり、低すぎたりしている場合は、規定の空気圧にしてください。

取扱いのポイント

タイヤの空気圧は、規定圧にして使用してください。規定圧以外で使用するとタイヤの摩耗を早めるばかりでなく、INFO 表示灯（18 頁参照）の誤点灯や正しく芝刈り作業ができない原因にもなります。



その他の点検

1.各部の締付け……ゆるみ、ガタがないこと

2.各種スイッチおよび各部の作動状態……正しく作動すること

3.前回使用時の異常個所……整備されていること

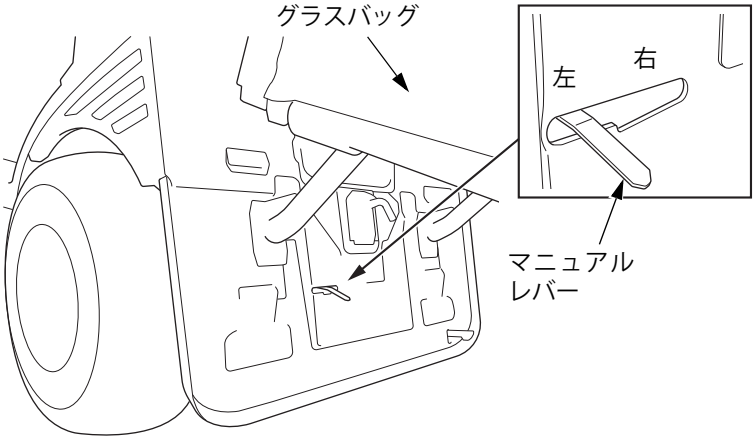
その他の異常を感じたら、直ちにお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

エンジンのかけかた

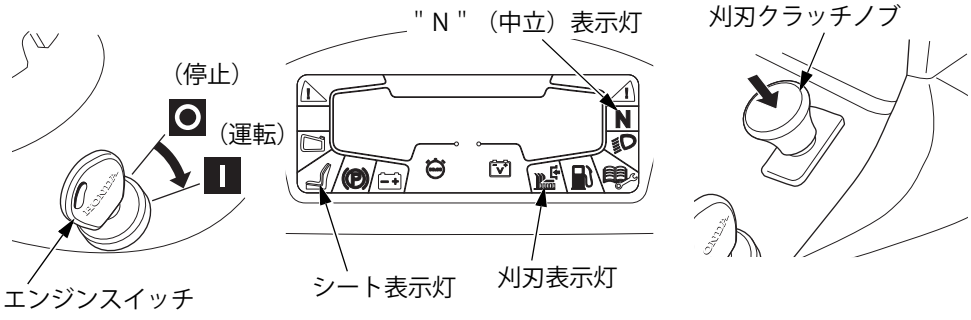
⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。

1. マニュアルレバーを左側にし、グラスバッグを装着します。

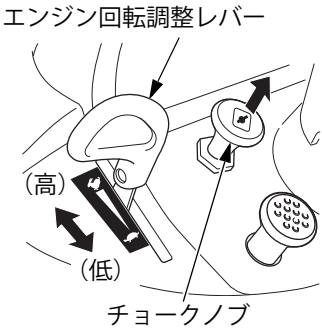


2. シートにすわり駐車ブレーキをかけ（15頁参照）、エンジンスイッチを"運転"の位置にして、"N"（中立）表示灯が点灯、シート表示灯と刈刃表示灯が消灯、刈刃クラッチノブが押さ（切）れていることを確認してください。



3. 寒いときやエンジンがかかりにくいときは、チョークノブを引いてください。

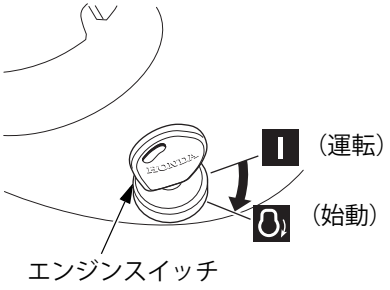
- エンジンが暖まっているとき、または気温が高いときには、エンジン回転調整レバーを " **低** " と " **高** " の間の位置にしてください。



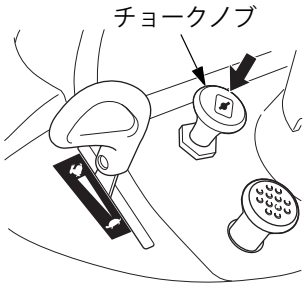
4. エンジンスイッチを " 始動 " の位置まで回し、スターターモーターをまわします。エンジンが始動したらスイッチから手を離します。自動的に " 運転 " の位置に戻ります。

取扱いのポイント

スターターモーターを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。



5. 2〜3分間暖機運転を行います。チョークノブを引いたときは、エンジンの回転が安定していることを確認したら、チョークノブを戻してください。



運転操作のしかた

芝刈り作業をする前に必ず " 安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう " の項目を良くお読みになり芝刈り作業にとりかかってください。

⚠警告

- **エンジンが始動しているときは、刈刃カバーに手や足を近づけないでください。刈刃は鋭くとがっていて高速で回転しています。誤って接触すると大ケガをします。**
- **旋回するときは、速度を落としてください。高速で急旋回すると、本機が転倒し、大ケガをするおそれがあります。**

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお問い合わせください。

本機には収納とマルチングをレバーで切替えられる機構が装備されています。
収納からマルチングへ切替えるとき、レバーが重かったり、引っ掛かりを感じたときはマルチングフラップおよび排出口を清掃してください。（34頁参照）
マルチングから収納へ切替えるときは、マルチングフラップおよび排出口に芝が詰まっていないことを確認してから作業を開始してください。（34頁参照）
マルチングフラップ周辺に芝が詰まったまま作業を開始すると、芝がグラスバッグに収納されないまま作業が継続されてしまいます。

上手な芝の刈り方

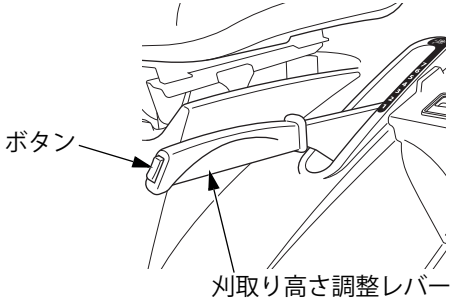
- 長い芝を刈るときは、刈取り高さを高くして十分車速を落して行ってください。その後、刈取り高さを刈取りたい高さに調整して再度行ってください。
- 雨天の場合など芝が濡れているときは、芝が刈刃カバーなどに詰まる場合がありきれいに刈取ることができません。乾いてから刈取ってください。
- 芝刈り作業中にエンジン回転数が低下した場合は、芝の刈取り量が多すぎるため、エンジンの負荷が大きくなっている可能性があります。一度に刈る幅を狭くする、車速を落とす、または刈取り高さを高くするなどの調整を行ってください。

- きれいに仕上げるためには、同じ場所にタイヤの跡がつかないように定期的に刈り方を変えてください。
- 芝刈り作業中は、一定車速で作業してください。作業中に車速を変えると仕上りが悪くなります。

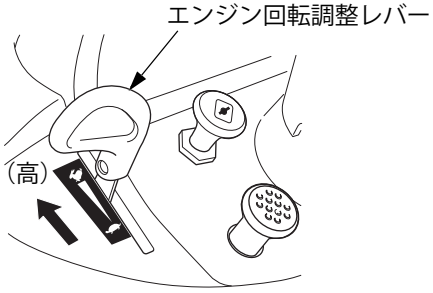
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認し（15頁参照）、刈取り高さを合わせてください。

取扱いのポイント

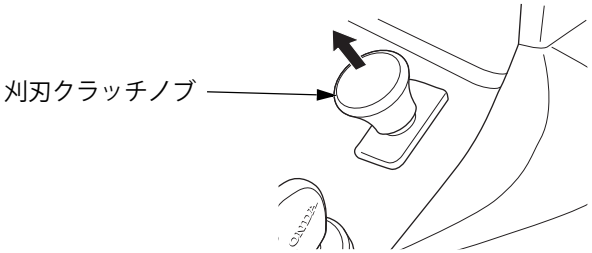
- 刈取り高さ調整レバーが確実にセットされていることを確認してください。
- 芝刈り作業をせずに移動するときは、刈取り高さ調整レバーを " 7 " の位置にしてください。



2. エンジン回転調整レバーを " 高 " の位置にしてください。

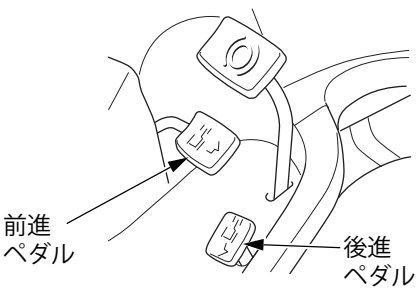


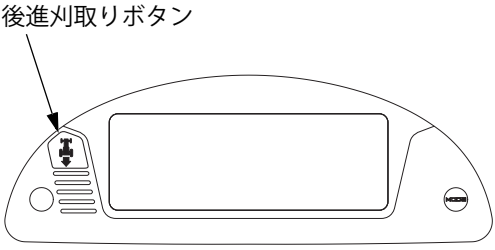
3. 刈刃クラッチノブを引いて（入）ください。刈刃が回転します。



4. 駐車ブレーキを解除し、前進ペダルを踏むと本機が発進します。前進ペダルを操作して、作業に適した車速にします。

- 刈刃が駆動状態のとき、後進ペダルを踏むとエンジンが停止します。後進で刈取りするときは、後進刈取りボタンを押しながら後進ペダルを踏むことによって、エンジンを停止することなく、後進で刈取りすることができます。





⚠警告

傾斜面の芝刈り作業は車速を落として上下方向に行ってください。また途中で停止はしないでください。

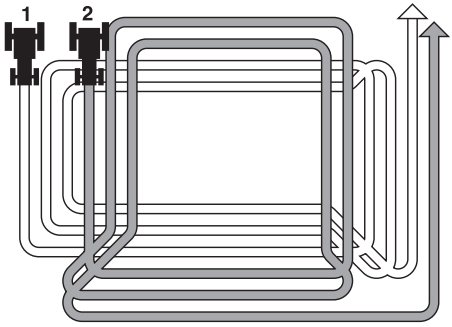
やむを得ず芝刈機を斜面に止め、上り坂発進する場合にはタイヤを滑らせないように前進ペダルをゆっくりと踏んで発進してください。

⚠警告

傾斜面で誤った発進のしかたをすると、本機がすべり、横転する原因になります。

5. 刈取りパターン

両方向から交互に刈取りを行うことをお勧めします。



- 段差を乗り越えるときは、アユミ板などを使用してください。刈刃クラッチノブを押し（切）、刈取り高さを " 7 " の位置にして直角に出入りし、十分注意してください。
- マルチング作業中に刈刃カバーの周囲から芝が噴出する、または刈取り後の芝が固まって落ちている場合は、芝が伸びすぎている、または刈取り長さが長すぎることが考えられます。マルチング時の刈取り長さは先端から1/3を目安にし、マルチング作業を行う前に芝の長さを10-13cmに刈っておく必要があります。
- 収納作業中にグラスバッグ表示灯（18 頁参照）が点滅し、グラスバッグブザーが鳴ったときは、直ちに刈刃クラッチノブを押し（切）、収納した芝を捨ててください。ブザーが鳴ったまま作業を続けると排出口に芝が詰まってしまいます。長く伸びた芝は詰まり易いので、作業速度を下げる、2度刈りを行う等状況に応じた作業が必要です。

⚠警告

段差を乗り越えるとき、旋回時は、遅い車速で行ってください。高速での運転は、転倒事故などを引き起こすおそれがあります。

取扱いのポイント

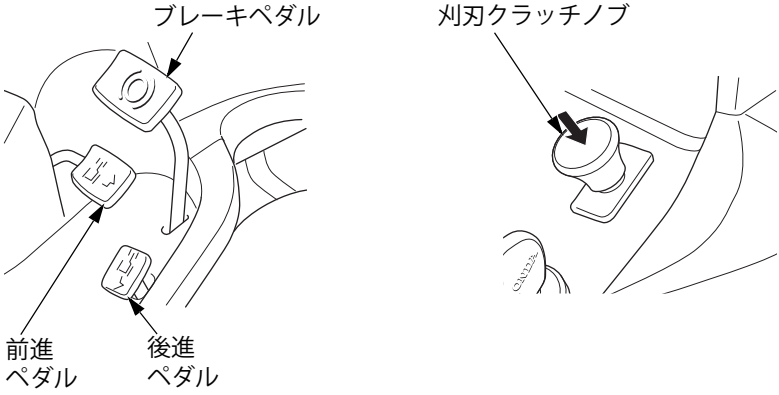
作業範囲内の障害物（切り株、縁石、スプリンクラーなど）は、作業前に確認して十分注意して行ってください。障害物への衝突は、本機の故障の原因になります。

芝刈機のとめかた

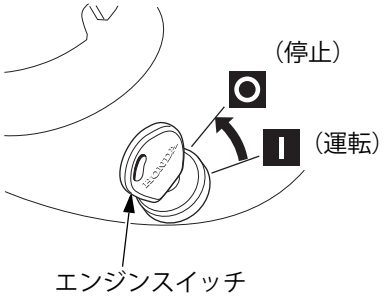
取扱いのポイント

- 緊急に停止する場合は、エンジンスイッチを " 停止 " の位置にしてください。
- 本機から離れるときには、必ずエンジンスイッチキーを抜いてください。

1. 走行ペダルを放してください。
2. 刈刃クラッチノブを押して（切）ください。
3. 駐車ブレーキをかけてください。（15頁参照）



4. エンジンスイッチを " 停止 " の位置にしてください。



芝刈機の清掃と保管

本機は天候の影響を防ぐため、乾燥した場所に保管し、可能であればカバーをかけてください。
芝刈り作業後は、刈刃カバー内、マルチングフラップ、排出口、グラスバッグに残った芝を取除き、外装を清掃してください。
グラスバッグ内の芝を取除いても警報が鳴り止まない場合は、グラスバッグブザースイッチを清掃してください。（57頁参照）

⚠警告

グラスバッグ内の刈取った芝は、早めに適切に処理してください。そのまま放置すると、湿った芝または腐った芝が熱を発生させ火災の原因になります。

プラスチック部の清掃は、エンジン、電装部品、ヒューズ等に水がかからないように注意し、水と中性洗剤を含ませたスポンジで清掃します。

取扱いのポイント

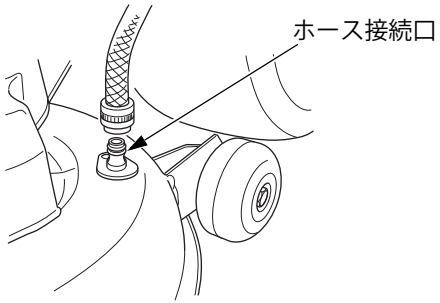
ボディやエンジンの清掃に、ホースで水をかけたり強い洗浄剤を使用しないでください。

マルチングフラップの清掃は、34頁を参照してください。

刈刃およびカバーと排出口の内部を洗浄するときは、本機を平らな場所に停め、以下の条件を満たしてください。

- グラスバッグが所定の位置に取り付けられていること。
- 運転者がシートに座っている。
- トランスミッションが " N " （中立）の位置になっている。
- 駐車ブレーキがかかっている。

1. 刈取り高さを " 1 " の位置にしてください。
2. 左右どちらかのホース接続口に水ホースを接続して水を流します。



3. エンジンをかけて刈刃を動かします。
4. 数分間清掃し、エンジンを止めます。
5. 反対側も同じ手順で清掃します。清掃は左右片側ずつ行ってください。

グラスバッグは、芝を取除いて清掃したら、なるべく早く乾燥した場所で乾かしてください。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHonda芝刈機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		作業前点検	1ヶ月目又は初回20時間運転目	20時間運転毎	6ヶ月毎又は50時間運転毎	1年毎又は100時間運転毎	2年毎又は300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検・補給	○						24
	交換		○			○		47
エアクリーナー	点検	○						27
	清掃				○(2)			50
	交換					○(*)		50
冷却空気取入れ口	点検・清掃	○						23
マフラー、マフラープロテクター	点検	○						29
バッテリー	液量点検			○				52
	液量･比重の点検					○(3)		－
タイヤ空気圧	点検	○						35
駐車ブレーキ	点検	○						34
マルチングフラップ	点検・清掃	○						34
	点検･必要に応じて調整					○(3)		－
安全装置の作動	点検	○						31
刈刃	点検	○(6)						30
刈刃ボルト締付	点検		○(3)			○(3)		－
刈刃ベルト	点検		○(5)					54
	点検･張り調整					○(3)(5)		－
走行駆動ベルト	点検･張り調整		○(3)			○(3)(5)		－
ブレーキコントロールロッド締付け	点検		○(3)			○(3)		－
ブレーキペダル遊び	点検・調整		○(3)			○(3)		－
ボルト、ナット締付け、各部の潤滑	点検･グリスアップ					○(3)		－
点火プラグ	点検・清掃					○		53
	交換						○	53
スロットルケーブル	点検・調整					○(3)		－
燃料タンク	点検･必要に応じて交換	2年毎(3)						－
燃料フィルター	点検･必要に応じて交換					○(3)		－
燃料チューブ	点検･必要に応じて交換	2年毎(3)						－
バルブ隙間	点検・調整					○(3)		－
タイミングベルト	点検	300時間毎(3)(5)						－
燃焼室	清掃	300時間毎(3)(4)						－
アイドリング回転	点検・調整					○(3)		－
刈刃デッキ内	洗浄	○(使用後)						45

(*) 紙ろ過部のみ交換してください。

(1) 点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2) ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナーの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。

(3) 適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店またはサービス指定店で実施してください。

(4) 表示時間を経過後すみやかに実施してください。

(5) 亀裂、摩耗等がある場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店で交換してください。

(6) 変形、摩耗等がある場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店で交換してください。

⚠警告

- **点検・整備は平坦な場所で駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて行ってください。**
- **屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。**

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

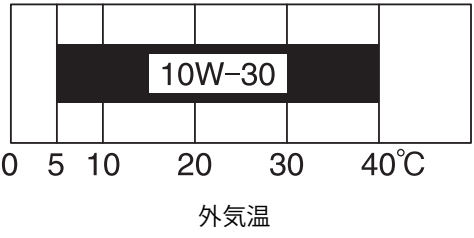
⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラーなどの温度、また油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

《推奨オイル》

Honda純正　ウルトラU汎用（SAE10W－30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W－30オイルをご使用ください。

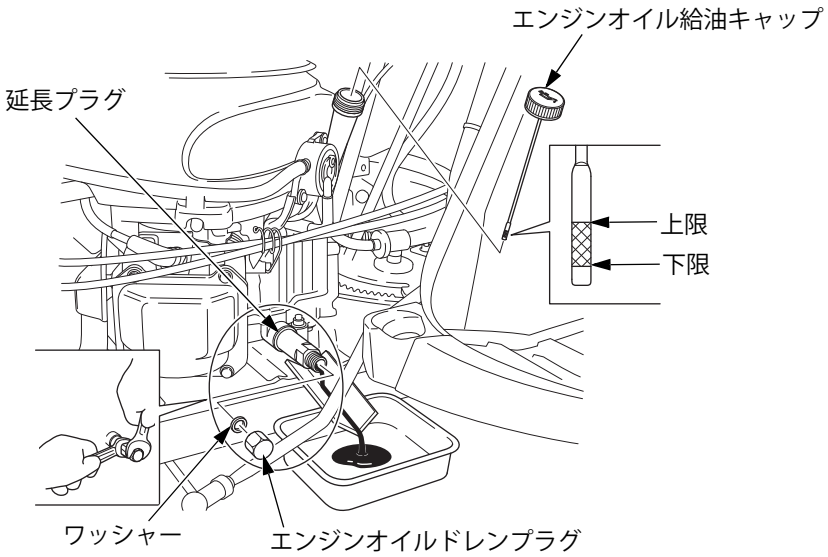
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度の
ものを表にもとづきお使いください。



《規定量》　　1.1 L

《交換のしかた》

1. **エンジンカバーを開けてください。（23頁参照）**
2. **エンジンオイル給油キャップを外してください。**
3. **オイルが車体やその周辺に付着するのを防ぐため、延長プラグの下に段ボール等を置いてください。**
4. **延長プラグを固定してエンジンオイルドレンプラグを外し、オイルを抜いてください。**
5. **エンジンオイルドレンプラグを確実に締付けます。このとき新しいワッシャーに交換してください。**
6. **給油口より新しいオイルを上限まで注入します。**
7. **注入後、エンジンオイル給油キャップを確実に締付けます。**



8. **エンジンカバーを閉じてください。**

取扱いのポイント

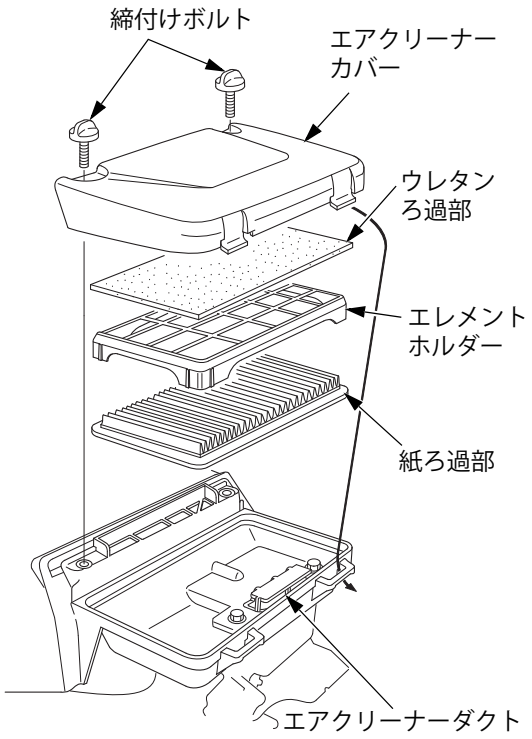
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合はオイルをお買いあげになったお店にご相談の上、処理してください。
- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換をしてください。
- オイルを抜くときに、車体やその周辺にオイルを付着させないようにしてください。付着した場合は、きれいに拭き取ってください。
- エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナー（空気清浄器）の清掃、交換

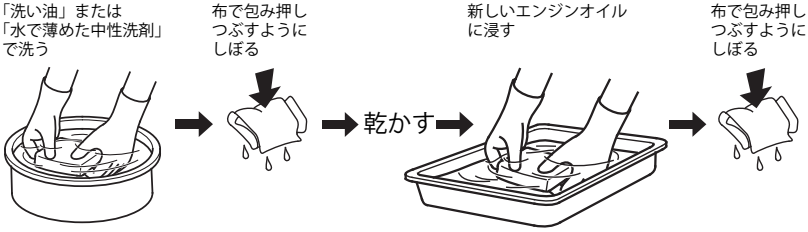
エアクリーナーが目詰りすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃してください。

《清掃のしかた》

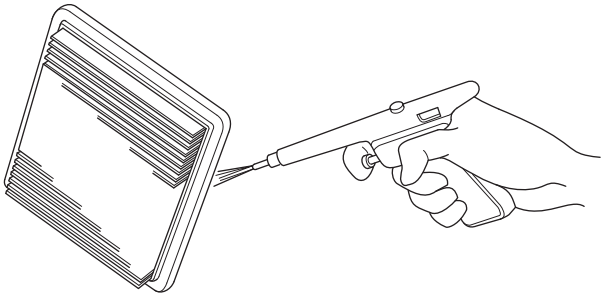
1. **エンジンカバーを開けてください。（23頁参照）**
2. **締付けボルトを外して、エアクリーナーカバーを取外します。**



3. **ウレタンのろ過部は中性洗剤を水で薄めて洗い、更に水ですすいでから圧縮空気を吹きつけるかまたはよく絞って乾かしてください。**
   次にきれいなエンジンオイルに浸したあと、固く絞ってから取付けます。



4. 紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹きかけるか、または軽く叩いて汚れを落します。汚れがひどい場合は交換してください。



5. 清掃後、ろ過部、エアクリーナーカバーを確実に取付け、締付けボルトで固定してください。

取扱いのポイント

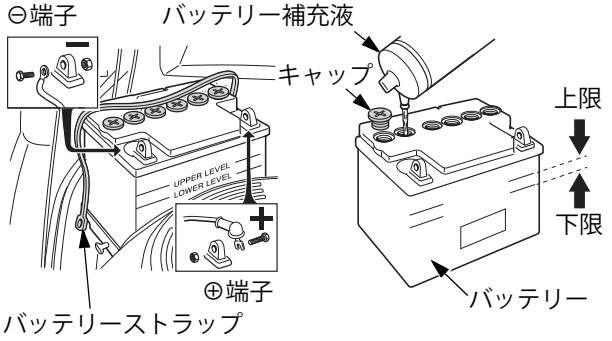
- エアクリーナーカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナーカバーやろ過部を装着しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。
- エアクリーナーダクトに塵やほこり、異物等が入ると、キャブレターに悪影響を与える原因になります。

バッテリー液の点検

エンジンカバーを開け（23 頁参照）、バッテリーの液面が各槽とも**上限**（UPPER LEVEL）と**下限**（LOWER LEVEL）の間にあることを確認してください。同時にキャップの通気孔につまりがないことを確認してください。

補給

少ないときはキャップを外し、バッテリー補充液（蒸留水）を**上限**（UPPER LEVEL）まで補給します。補給する場合は、バッテリーストラップを外し、バッテリーを本機から取外して行ってください。



端子の手入れ

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは、締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

警告

- **バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。**
- **バッテリー液面が下限以下のままで使用または充電をしないでください。バッテリーの劣化を早めたり、破裂（爆発）の原因となるおそれがあります。破裂（爆発）の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。**
- **バッテリーの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。**
- **バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。**

取扱いのポイント

本機は専用バッテリーを使用しているため、バッテリーを交換する際は必ず専用バッテリーに交換してください。バッテリーの交換については、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお問い合わせください。

- 長時間使用しない場合には、バッテリーの⊖端子を外しておいてください。長期間保管中は、6 か月に 1 度補充電を行ってください。
- バッテリー補充液（蒸留水）を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限（UPPER LEVEL）以上入れないでください。万一バッテリー液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

点火プラグの点検、調整、交換

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当だと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

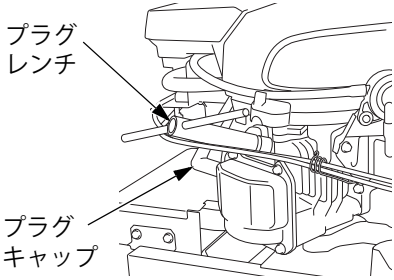
エンジン停止直後のマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。

点火プラグは、エンジンの左右に1個ずつ装備されています。

《指定プラグ》

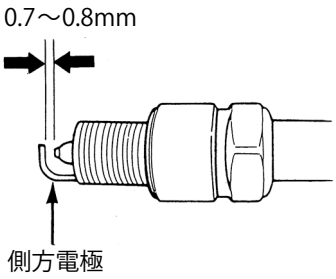
BPR5ES（NGK）

W16EPR-U（DENSO）



清掃のしかた

1. **エンジンカバーを開けます。（23頁参照）**
2. **プラグキャップを外します。**
3. **プラグレンチで点火プラグを外し、清掃します。**
4. **プラグの清掃はプラグクリーナーを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはサービス指定店をご利用ください。**
   - プラグクリーナーが無いときはワイヤーブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた

5. **側方電極をつめ、火花すき間を0.7～0.8mmに調整します。**

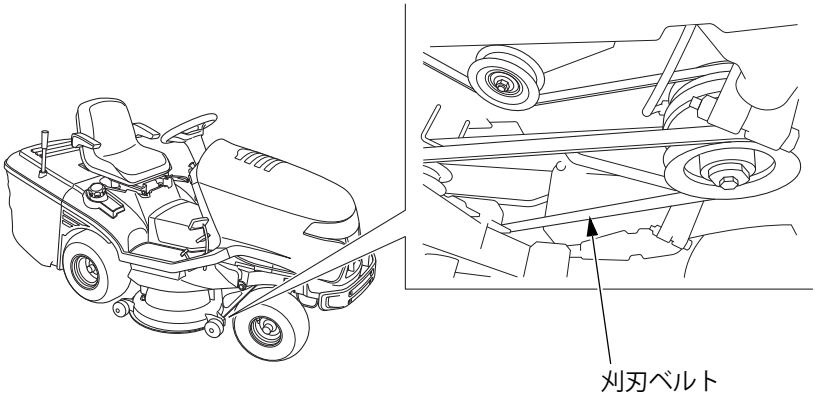
取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けはネジ山を壊さないようにまず指で軽くねじ込み、次にプラグレンチで確実に締込んでください。
- 点検調整後はプラグキャップを確実に取付けてください（締付トルク：15～20 N・m（1.5～2.0 kgf・m））。確実に取付けないとエンジン不調の原因となります。

刈刃ベルトの点検

摩耗、損傷の点検

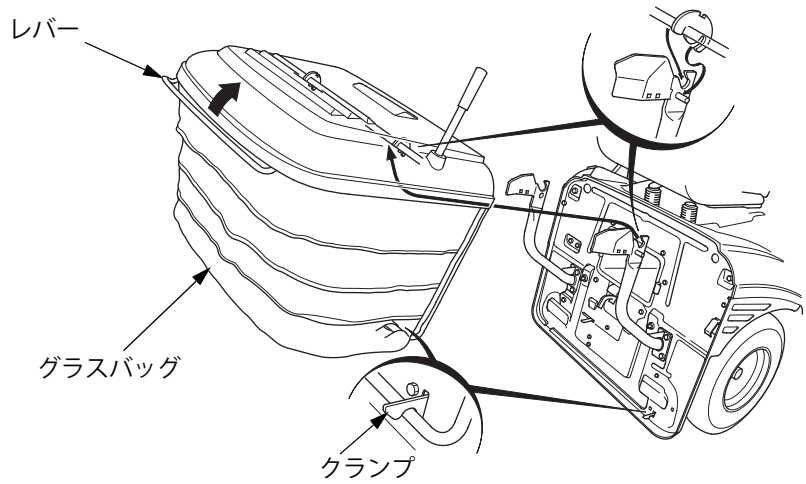
1. 刈刃クラッチノブを押して（切）ください。
2. 刈取り高さを " 7 " の位置にしてください。
3. 刈刃ベルトの摩耗、損傷を確認してください。もしベルトが摩耗、損傷していたら、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。



グラスバッグの取外し、取付け

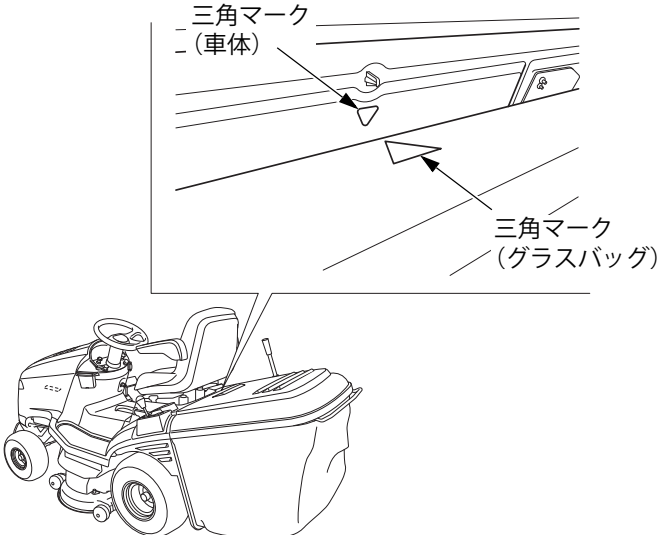
《取外し》

1. レバーを少し持ち上げ、クランプを外します。
2. グラスバッグを上に持ち上げ、グラスバッグを取外します。



《取付け》

1. グラスバッグの三角マークを車体の三角マークに合わせ、グラスバッグを取付けます。

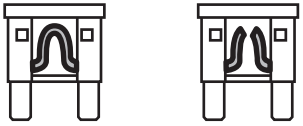


ヒューズの交換

⚠注意

ヒューズを点検、交換するときは、エンジンを停止してエンジンスイッチキーを抜き、バッテリーの⊖端子を外してから行ってください。

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。
そのまま交換しても、再び切れるおそれがあります。



正常　　ヒューズ切れ

取扱いのポイント

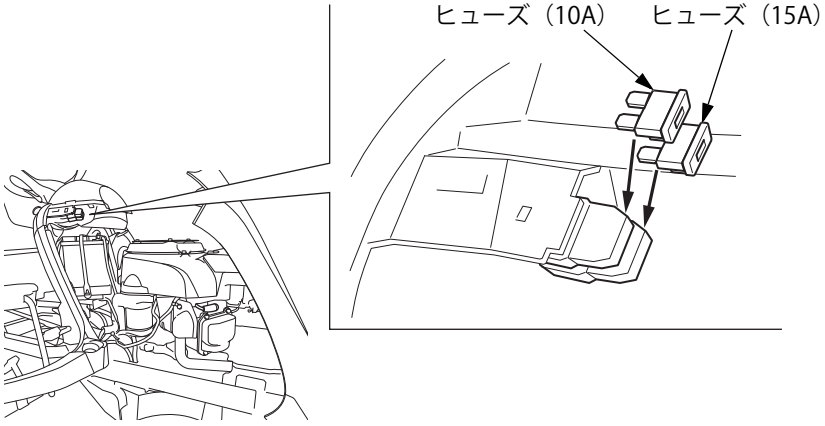
指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となります。指定ヒューズ以外のものは使用しないでください。

切れたヒューズを抜いて、新しいヒューズに交換します。

1. エンジンカバーを開けてください。（23頁参照）

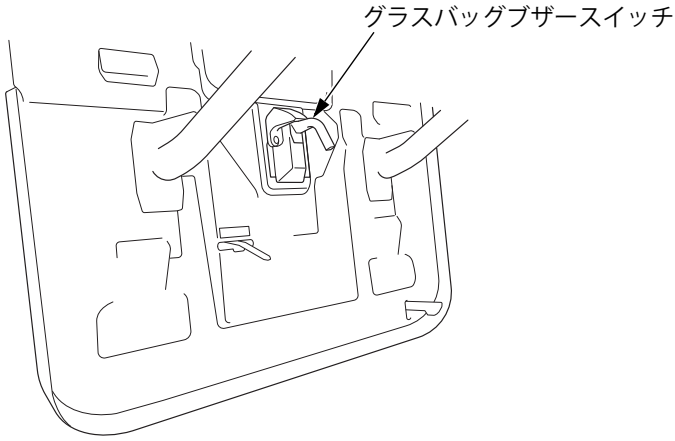
2. ヒューズを引き抜いてください。

規定容量：10A, 15A



グラスバッグブザースイッチの清掃

1. グラスバッグを取外します。（55頁参照）
2. グラスバッグブザースイッチの周辺を清掃します。



3. エンジンスイッチを " 運転 " にし、刈刃クラッチノブを引き（入）、ブザーが鳴らないことを確認します。もしブザーが鳴る場合は、お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください。

運搬するときは

アユミ板を使ってのトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：251 kg
3. 傾斜角度が10°以下になるようなアユミ板を選んでください。
4. ほろまたは、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あることを確認してください。燃料が少ないとエンストしてしまうことがあります。

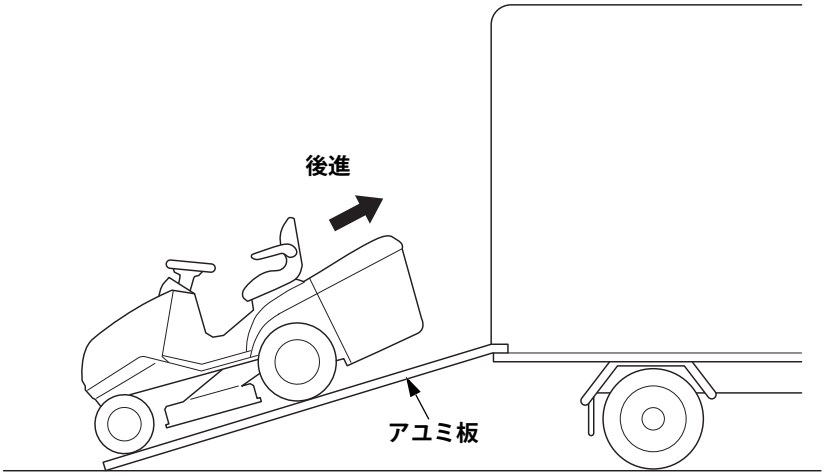
《手順》

1. アユミ板の幅をタイヤの幅に合わせます。
2. 刈取り高さ調整レバーを " 7 " の位置にしてください。
3. エンジンを始動し、ハンドルをしっかり保持します。

4. 十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠警告

アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は正しい手順で再始動してください（36頁参照）。マニュアルレバーは右側にしないでください。本機が空走することがあります。



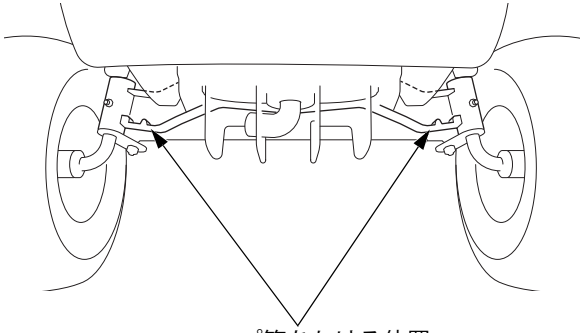
ロープによる固定方法

トラック等に積載したら、駐車ブレーキをかけ、エンジンスイッチを " **停止** " の位置にしてエンジンを止めてください。その後、下図で示す位置をロープ等で固定してください。

取扱いのポイント

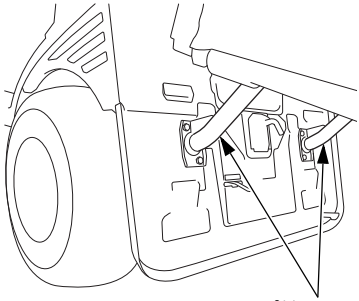
- 下図指定位置以外にロープをかけないでください。
- 本機を破損するおそれがありますので、必要以上にロープ等を強く締付けないでください。

前部



ロープ等をかける位置

後部



ロープ等をかける位置

長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレター内の燃料を抜いてください。

- 燃料を抜かないと、ガソリンが劣化して次回使用時に始動困難となり、故障の原因となります。

⚠警告

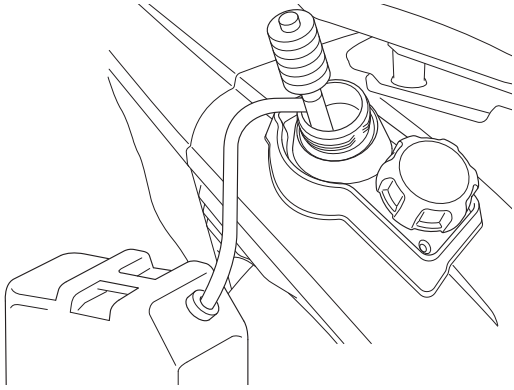
- **エンジン停止直後はマフラーや点火プラグなどは非常に熱くなっており、ヤケドをするおそれがあります。作業はエンジンが十分冷えてから行ってください。**
- **本機を平坦な場所に停止し、駐車ブレーキをかけてください。誤ってエンジンが始動しないようにエンジンスイッチキーを抜いて手入れを行ってください。**

1. **燃料給油キャップを外し、市販のガソリン用ポンプなどを使用して燃料タンク内のガソリンを専用容器に移してください。電動式のポンプは使用しないでください。**

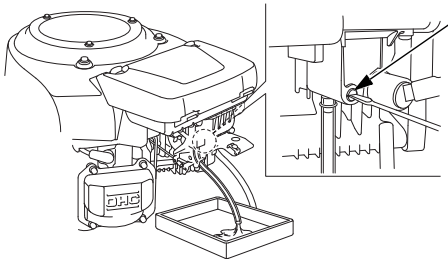
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。

- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンをこぼさないようにしてください。万一こぼれた場合は、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。



2. **キャブレター内の燃料を抜いてください。**
   燃料ドレンスクリューを回して適切な容器に燃料を抜いてください。



取扱いのポイント

次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。

3. **バッテリーの㊀端子を外し、6か月に一回は充電してください。**
4. **刈刃カバーの内側を水でよく洗ってよく乾かしてください。**
5. **芝くずを完全に取り、刈刃カバーの塗装がはげている場合は、その部分の錆を取り除いて防錆塗料を塗布してください。**
6. **駐車ブレーキをかけて、風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平に保管してください。**

● 本機にカバーをかけてほこりがつかないようにしてください。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を確認し、必要に応じて空気を入れてください。保管後使用する場合は、"**作業前に点検、調整しましょう**"の点検項目を行ってから作業に取りかかってください。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス指定店へお申しつけください。

症状	原因	解決方法
エンジンスイッチを " 運転 " にしてもインストパネルが起動しない(ブザー音なし)	バッテリーの接続不良	・バッテリー端子を締付けてください ・プラス、マイナスが正しいか確認してください
	バッテリー上がり、もしくはバッテリープレートの腐食	バッテリーを充電または交換してください
	ヒューズ切れ	ヒューズ交換：56頁参照
	アース不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
エンジンスイッチを " 運転 " にしてもインストパネルが起動しない(ブザー音)	電装部品の濡れ	エンジンスイッチを " 停止 " にし、常温で乾燥させてください
エンジンスイッチを " 始動 " にしてもスターターモーターが回転しない	始動条件を満たしていない	始動条件を満たす(症状が継続する場合は関連スイッチを点検)：36頁参照
	バッテリーの充電不足	バッテリーを充電してください
	スターターモーターの不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
エンジンスイッチを " 始動 " にすると、スターターモーターは回転するが、エンジンが始動しない	バッテリーの充電不足	バッテリーを充電してください
	燃料の供給不足	タンク内の残燃料の点検：25頁参照
	点火不良	・点火プラグキャップの点検：53頁参照 ・点火プラグの点検：53頁参照
始動が困難、またはエンジンが不規則に回転する	エアクリーナーが汚れている	エアクリーナーろ過部の清掃：50頁参照
	古い燃料が使われている	燃料タンクを空にし、新鮮な燃料を補給する：25頁参照
	キャブレターの不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
刈刃が起動中にエンジン回転が落ちる	移動速度が刈取り高さに対して速すぎる	・移動速度を下げる ・刈取り高さを高くする：13頁参照
刈刃を駆動すると、エンジンが停止する	刈刃駆動条件を満たしていない	刈刃駆動条件を満たす(症状が継続する場合は関連スイッチを点検)：31頁参照
	後進中での刈刃の駆動	後進刈取りボタンを押す：13頁参照
エンジンを始動して数分間たってもバッテリー警告灯が消えない	バッテリーの充電不足	バッテリーを充電してください
	充電ヒューズ切れ	ヒューズ交換：56頁参照
	充電機の故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
バッテリー警告灯が点滅する	バッテリーの過電圧	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申し付けください
エンジンが停止する(ブザー音あり)	チャージレギュレーターの過電圧	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
エンジンが停止する(ブザー音なし)	バッテリー接続不良	バッテリーを接続してください
	安全装置の作動	安全装置の点検：31頁参照
	エンジンアース不良	お買いあげ販売店にお申しつけください
	エンジン不良	
刈刃が駆動しない	安全装置の作動	安全装置の点検：31頁参照
	ベルトの緩み	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
	刈刃クラッチまたはスイッチの不良	
刈取りが不均一で、芝があまり収納されない	移動速度が芝の高さに対して速すぎる	・移動速度を下げる ・刈取り高さを高くする：13頁参照 ・芝が乾くまで待機する
	排出口の詰まり	グラスバッグを取外し、排出口を清掃する：34頁参照
	刈刃デッキの汚れ、詰まり	刈刃デッキを清掃する：30頁参照
	刈刃が地面と平行でない	タイヤ空気圧の点検：35頁参照
	刈刃の不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
刈刃が駆動中、異常な振動がする。	刈刃が歪んでいる	お買いあげ販売店にお申しつけください
	刈刃が緩んでいる	
	取り付けボルトの緩み	
エンジン回転中に、走行ペダルを踏んでも動かない	マニュアルレバーが右側の位置にある	マニュアルレバーを左側の位置にする：22頁参照

症状	原因	解決方法
マルチングの操作が出来ない	マルチングレバーが動かない	• マルチングフラップ、または排出口に溜まった芝を除去する：34頁参照 • 刈刃カバー内を清掃する：30頁参照
	マルチングフラップが適切な位置に動かない	マルチングフラップ、または排出口に溜まった芝を除去する：34頁参照
グラスバッグに芝が収納されない	グラスバッグへ芝が送られない	• マルチングフラップ、または排出口に溜まった芝を除去する：34頁参照 • 刈刃カバー内を清掃する：30頁参照
INFO表示灯が傾斜の少ない場所で点灯する	急な運転	急発進、急停止、急旋回を控えてください
	タイヤ空気圧の低下	タイヤ空気圧の調整
	キャリブレーション不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
	表示灯の故障	
メンテナンスコードがメンテナンス間隔を超えても表示されない	バッテリー電圧超過	バッテリー電圧をディスプレイで確認し、12.7V以下になるまで待ってください。その後、エンジンスイッチを＂停止＂、＂運転＂にしてください
メンテナンス表示灯、メンテナンスコードがリセットできない	エンジンが始動している	エンジンを停止してください
	バッテリー電圧超過	バッテリー電圧をディスプレイで確認し、12.7V以下になるまで待ってください。その後、エンジンスイッチを＂停止＂、＂運転＂にしてください
エンジンの稼働時間が積算されない	レギュレーター接続不良、レギュレーター不良または表示灯の故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
メインヘッドライトの明るさが低下する	LEDライト内部の温度上昇	エンジンスイッチを＂停止＂にし、しばらく待ってから＂運転＂にしてください
	バッテリー電圧低下	バッテリーを充電してください
デイライトが点灯しているのに、暗い場所でヘッドライトが点灯しない	コネクター接続不良	エンジンスイッチを＂停止＂にし、コネクター、配線を点検してください
	配線不良またはヘッドライトセンサーの故障	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください
デイライトが点灯しない	コネクター接続不良	エンジンスイッチを＂停止＂にし、コネクター、配線を点検してください
USB機器が充電されない	エンジンスイッチが＂停止＂状態	エンジンスイッチを＂運転＂にしてください
	USBソケット内の温度上昇	エンジンスイッチを＂停止＂にし、しばらく待ってから＂運転＂にしてください
	USBケーブル接続不良	USBケーブルの接続を確認してください
	USBケーブル不良	別のUSBケーブルで接続してください
	バッテリー電圧低下	バッテリーを充電してください
	USBソケット入力部接続不良	お買いあげ販売店またはサービス指定店にお申しつけください

主要諸元

名　　称	HF2417K5
型　　式	MAPF

エンジン

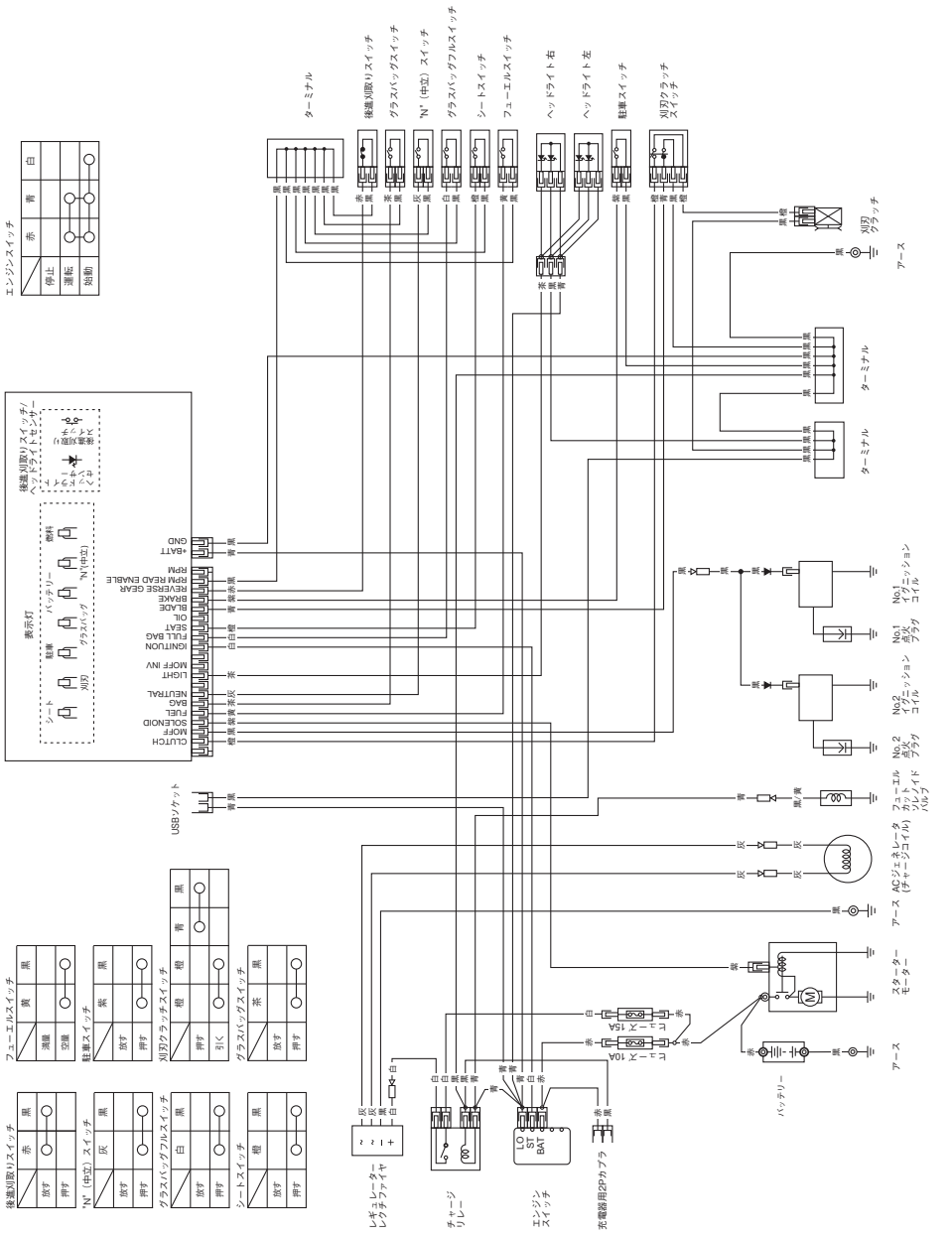
名　　称	GCV530
形　　式	強制空冷4ストローク頭上弁式
総 排 気 量	530 cm^3
内径×行程	77.0×57.0 mm
点 火 時 期	上死点前20°
点 火 方 式	トランジスタ式マグネト点火
オイル容量	1.1 L
点火プラグ	BPR5ES（NGK） W16EPR-U（DENSO）

フレーム

全　　長	2,460 mm
全　　幅	1,060 mm
全　　高	1,290 mm
刈　　幅	1,020 mm
刈 高 さ	29～90 mm （7段階）
乾燥質量（重量）	244 kg
軸　　距	1,150 mm
輪　　距	前輪　730 mm　　後輪　760 mm
タイヤサイズ **空 気 圧**	前輪：15×6.00 - 6　　後輪：18×8.50 - 8 前輪：100 kPa (1.0kgf/cm^2)　後輪：120 kPa (1.2kgf/cm^2)
変 速 方 式	油圧式無段変速方式
走行速度 **前進（最高速度）** **後進（最高速度）**	 8.2 km/h 4.2 km/h
HST（変速機）オイル容量	2.1 L
燃料タンク容量	8.5 L
バッテリー	標準12 V 24 Ah
グラスバッグ容量	300 L

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

配線図


サーキット/コントロールパネル
後進刈取りスイッチ/ヘッドライトセンサー
表示灯
シート
駐車
刈刃
N(中位)
バッテリー
グラスバック
燃料
CLUTCH
MOFF
SOLENOID
FUEL
BAG
NEUTRAL
LIGHT
MOFF INV
IGNITION
FULL BAG
SEAT
OIL
BLADE
REVERSE GEAR
BRAKE
RPM READ ENABLE
RPM
+BATT
GND
USBソケット
エンジンスイッチ
停止
運転
始動
ターミナル
後進刈取りスイッチ
グラスバックスイッチ
N(中位) スイッチ
グラスバックフルスイッチ
シートスイッチ
フューエルスイッチ
ヘッドライト右
ヘッドライト左
駐車スイッチ
刈刃クラッチスイッチ
刈刃クラッチ
フューエル
刈刃クラッチ
ACジェネレータ
(チャージコイル)
スターター
モーター
アース
バッテリー
ヒューズ 10A
ヒューズ 15A
レギュレーター
レクチファイヤ
チャージ
リレー
エンジン
スイッチ
充電器用ボックス
No.1
ダイオード
No.1
コイル
No.2
ダイオード
No.2
コイル
No.2
ダイオード
フューエル
ソレノイド
バルブ

メ　　モ

メ　　モ

本製品についてのお問い合わせ・ご相談は、まず、
Honda 販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9:00～12:00　　13:00～17:00
〒351-0188 埼玉県和光市本町8－1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

本製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

(1)製品名、タイプ名
(2)ご購入年月日
(3)販売店名
(4)フレーム号機 _____（書込み控え欄）

HONDA

HF2417
30VK1614
00X30-VK1-6140

© 2025 本田技研工業株式会社
Printed in Italy